

平成27年度

能美市教育委員会の点検及び評価報告書
(平成26年度事業対象)

平成27年12月

能美市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに市民に公開しなければならないこととなっています。

そこで、能美市教育委員会では、同法の規定により、平成 26 年度の取り組みについて、自らその状況を点検し評価を行い、金沢大学地域連携推進センター教授浅野秀重氏にご意見をいただき、まとめたものであります。

能美市教育委員会としては、点検・評価の実施を通して、施策の検証と改善を絶えず図りながら、教育施策の着実な推進に努めていきます。

平成 27 年 12 月

能美市教育委員会

目 次

1 事務の点検評価

施策1 学校教育の充実

- 1 教職員の資質並びに授業力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 豊かな心, 確かな学力の向上・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 教育支援の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4 教育環境の整備充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

施策2 青少年の健全育成

- 1 青少年教育・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

施策3 生涯学習の推進

- 1 これからの国際化社会の中で活躍できる人材の育成と国際化の推進 10
- 2 生涯学習活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3 公民館活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 4 社会教育施設の運営・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

施策4 芸術・文化の振興

- 1 文化財の保存と活用・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 2 博物館の活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 3 文化振興・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

施策5 生涯スポーツの推進

- 1 競技スポーツの充実・強化・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- 2 生涯スポーツの普及・振興・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- 3 スポーツ施設の整備充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

2 教育委員会会議及び教育委員の主な活動

- (1) 教育委員会会議・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- (2) 教育委員の主な活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- (3) 平成26年度教育委員会会議開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

施策1 学校教育の充実

地域に根ざした学校づくり，次世代を切り拓く人材の育成を目指して，豊かな心，確かな学力，健やかな体をバランスよく育む学校教育活動が展開できる教育環境づくりを推進します。学習指導要領に基づき，活用力を培う授業づくり，活きた道徳・特別活動の充実，体罰・いじめを許さない活気あふれる組織づくりを目指します。

1 教職員の資質並びに授業力の向上

平成26年度の主な取組

◇教科研修員派遣事業（175千円）

教育フォーラムを機に立ち上げた事業で，5年目となります。

*目的 教科等（道徳等を含む）の専門性を高め，優れた授業実践力を身に付けた教員を養成する。

*研修期間 1週間

*資格 能美市内小中学校勤務教諭（中堅層）で校長が推薦し，教育長が認めたものとする。 ※年間2名

*役割 「（能美市）教科研修生」として先進校の授業実践に学び，
・在籍校で率先して授業を公開するなど，校内，市内の授業力向上に資する。
・市内近隣校からの要請に応じ，研修会への参加を通して授業力向上に資する。
・市教育委員会からの要請に応じ市内の授業力向上に資する。

*実績 平成22年度（筑波大学附属小学校2名：国語科・算数科）

平成23年度（筑波大学附属小学校1名：算数科）

（上越市立大和小学校1名：ICT教育）

平成24年度（筑波大学附属小学校2名：算数）

平成25年度（筑波大学附属小学校2名：算数・道徳）

平成26年度（筑波大学附属小学校2名：算数・国語）

評価

・授業研修の先進校である筑波大学付属小学校に，能美市内の2名の教員を派遣することができました。研修を終えた教員は，自校の教職員に研修内容を広げ，還元しました。さらに，学校教育研究会の全体会で成果を報告しました。

・8月の夏季教職員研修会では研修講座を開設して市内の教職員への発信し，能美市全体の指導力向上，授業力の向上につなげています（本事業は平成26年度までの5年継続事業であったため，平成26年度をもって終了となります）。

○意見

平成 24 年度から継続して行われていた筑波大学附属小学校への教科研修員派遣事業は、26 年度をもって終了とのことですが、先進的な授業事例に関する情報収集は、絶えず研究と修養に努めることが求められる教員にとっても大切な営みであり、8 月の夏季教職員研修の拡充など様々な手立てを講じながら、能美市教員全体の力量向上や資質形成に資する取組みについてご検討いただけることを願っています。

2 豊かな心、確かな学力の向上 豊かな心・確かな学力（豊かな学力）

平成 26 年度の主な取組

◇視聴覚機器等活用推進事業（5,297 千円）

視聴覚機器等を教具として積極的に活用し、授業改善、授業力の向上を図ります。教科用ソフト（学習探検ナビ）を活用し、授業や指導に活かします。また、ICT サポートとして、月 2～3 回学校に支援員を派遣し、活用実践力の向上を図ります。

*教科用ソフト「学習探検ナビ（マナビー）」の配備

- ・小学校（国語，算数，社会，理科，生活，体育，図工）
- ・中学校（国語，数学，社会，理科，英語，技術家庭，保健体育）

*ICT 外部サポーター（教育ソフトサポート業務）の配置

- ・役割 授業・教員研修・校務における ICT 支援
- ・小学校 3 校 月 3 回 その他の学校 月 2 回

*H26 年度に新規に配備した視聴覚機器

- ・タブレット端末 各学校 3 台
- ・プロジェクター 大型 1 台 小型 6 台

*研究実践概要

- ・実物投影機等の効果的な活用方法を探り、授業改善を図る。
- ・タブレット端末の活用方法を研究する。
- ・外部講師を招聘して視聴覚機器等の効果的な活用法について積極的に研修し、授業実践力を高める。

*能美市公開研究授業の機会に ICT を活用

- ・NOMI りんぐ 26/10/8 福岡小・辰口中 10/28 中央小
- ・NOMI ばんぶー 26/11/19 寺井中 27/1/23 根上中・和気小

*能美市内教職員アンケート結果より抜粋

（ ）は昨年度

- ・「授業で ICT を使っていますか。」・・・68 % (62%)
- ・「ICT 活用が児童生徒の学習への意欲や関心を高めていると感じていますか。」・・・95% (92%)
- ・「ICT 活用が授業の改善につながっていると感じますか。」・・・85% (79%)

評価

- ・ICTサポーターの配置や、ICT機器の導入は、学校のニーズも高い。タブレット端末の使用については、効果的な活用法を調査研究し、学校教育研究会で広めることができました。
- ・教職員がICTを活用する能力を更に向上させ、児童生徒が「わかる」「できる」と実感できる授業へとさらなる指導力向上につなげていきたい。小中連携研究会（NOMIばんぶー）や学年研究会（NOMIりんぐ）などの公開研究会等の機会を捉えて、ICT機器を使った授業の発信を行い、実践力の向上を図っていくことができました。
- ・ICT機器の活用におけるハード面・ソフト面・リテラシー面が一体となることで児童生徒の学習意欲の向上、教員の授業力向上を図り、最終的には児童生徒の学力向上につなげていく必要があります。

〇意見

教員がICT機器を効果的に活用し、児童生徒が「わかる」「知る」喜びを実感できるようさらなる授業改善への工夫に努めるとともに、公開研究会などの機会を通じて児童生徒の学習意欲の向上、全体的な「豊かな学力」の形成を図ってくださることを願っています。併せて、所管する各学校への機器の配備についても引き続きの配慮を期待いたします。

◇心の教育（人間関係力）推進事業（2,829千円）

「心の教育推進事業」として、道徳教育・特別活動を各学校での重要な領域と位置づけ、すべての教育活動をトータルに進めていくことが大切であると考えます。

昨今、人間関係づくり（人間関係力）の未熟さなどが原因となり、いじめ・不登校などの生徒指導上の問題が発生したり、規範意識やモラルの低下が叫ばれたりしています。より良い学校生活と友達づくりのためのQ-Uアンケートを小学校4年生から中学校3年生までの全員に実施し、児童生徒一人一人の成長とすべての教育活動の要としての「学級づくり」に有効に活用し、心の教育のさらなる充実を図ります。

- *目的 一人一人の児童生徒の内面をつかむためにアンケートを行い、人間関係力の醸成、親和的な学級集団づくりを目指す。
- *対象学年 小学校4年生～中学校3年生全員
- *実施回数 年間2回（6月・11月）
- *実績 「親和的な学級」に属する学級数の割合
23年度 6月実施：38%→11月実施：54%
24年度 6月実施：52%→11月実施：61%
25年度 6月実施：55%→11月実施：64%
26年度 6月実施：49%→11月実施：54%（参考値）

※26年度は評価方法に変更あり

評価

・Q-Uアンケートの実施により、これまで以上に人間関係づくりを大切にした学級経営意識を高くもち、いじめ・不登校等の未然防止にもつながっています。一人一人の児童生徒を客観的にきめ細かく理解することで、指導に活かすことができ、本人、保護者との信頼関係が醸成されます。

・導入4年目となり、Q-Uアンケートに関する校内研修会も定着しています。教職員が、Q-Uアンケートの意義をしっかりと理解し、学級づくりに活用していくための組織的なスキルアップを図ることができました。

・Q-U調査の結果を学級担任のみならず、学校全体で共有し、一人ひとりの把握に努めています。学級づくり・人間関係づくりの手立てとしての活用は勿論、さらに、きめ細かく分析し、自己肯定感、自己有用感にもつなげていきたい。

○意見

人と人がより良い人間関係を構築して、生活や暮らしを営めるような社会を形成していく上で、「人間関係力」を育てることは、児童・生徒はもちろん大人にとっても求められるものと言うことができるのではないのでしょうか。Q-Uアンケートの実施を通じて、児童生徒が自己を見つめ直し、他者の困りごとや悩みごとを「ジブンゴト」としてとらえ、手や心をさしのべることができるようになってくれることを期待いたします。そうした地道な取組みが、いじめ、不登校等の未然防止にもつながるように思われます。

昨年度、豊かな人間関係の形成が、職場や地域社会で多様な人と仕事をしていくための基礎的な力となり、それらは、社会人基礎力としての「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の形成にも資すると述べさせていただきましたが、能美市が推進する「人間関係力」事業は、「社会人基礎力」の考えと軌を一にするものです。今後とも積極的な推進を願います。

3 教育支援の充実

平成26年度の主な取組

◇特別支援教育支援員配置事業（25,660千円）

平成26年10月時点での能美市内の小中学校からの報告によれば、学習障害LD、注意欠陥・多動性障害ADHD、高機能自閉症HFAなど、いわゆる学校で特別な支援が必要な児童・生徒数は全体で367名と報告されており、市内小中学生全体の7.4%（文科省：全国では6%）にあたります。

この割合は年々増加傾向を示しており、その支援体制の充実が急務です。

*配置人員	平成22年度	小学校11名、	中学校2名	計13名
	平成23年度	小学校14名、	中学校2名	計16名
	平成24年度	小学校16名、	中学校3名	計19名
	平成25年度	小学校19名、	中学校3名	計22名
	平成26年度	小学校20名、	中学校5名	計25名

評価

・発達障害を含め通常教室の中で特別な支援が必要な児童生徒は年々増えており、特別支援教育支援員を増員することによって、学級づくりの充実、個に応じた支援体制の充実、安全安心の学校づくりが期待できます。浜小・寺井小・辰口中央小などの大規模校では、支援員の人数を4名配置することができました。特別支援教育支援員の増員により、ニーズに応じた支援体制の充実につなげることができました。

・支援が必要な児童生徒の増加に加え、若手教員が増えたことなどにより、特別な支援が必要な児童生徒への対応に困難さがみられます。きめ細かな指導と学力保障をしていくうえでも、支援員の増員とともに、資質の向上と支援内容の充実を図っていくことが必要であり、平成27年度は27名の支援員の増員配置を実施しますが、まだまだ学校には必要性があり、増員を予算化していく必要があります。また、市発達支援センターとの連携を重視するとともに、支援員の研修を充実させる予定です。

○意見

学習障害LD、注意欠陥・多動性障害ADHD、高機能自閉症HFAなど特別な支援を必要とする児童生徒のため、特別支援教育支援員の使命や期待される役割を考慮し、その増員配置に向けた施策は大切なことと思われまます。

当然のことながら、学校は一定程度閉鎖された空間とも思われまますが、一つの社会空間であり、その空間の中で温かい「やりとり」がなされ、その様態は、支援を要する児童生徒だけではなく、他の児童・生徒に対しても意義のある「無意図的な教育」になろうと思ひます。「児童の権利条約」、「障害者の権利条約」の理念に叶うものでもあり、支援員への研修の充実など今後とも鋭意取組まれますよう願ひてひます。

4 教育環境の整備充実

平成 26 年度の主な取組

◇浜小学校施設整備事業 (給食室トイレ扉改修, 非構造部材耐震点検調査・実施設計)	1,322 千円
◇福岡小学校施設整備事業 (図書館照明取替, 非構造部材耐震点検調査・実施設計)	1,842 千円
◇寺井小学校施設整備事業 (真空式温水ヒーター改修, 運動場テント張替)	1,814 千円
◇寺井小学校大規模改造事業 (建築, 機械設備, 電気設備)	177,380 千円
◇湯野小学校施設整備事業 (職員室等エアコン設置, 非構造部材耐震点検調査)	4,883 千円
◇粟生小学校施設整備事業 (トイレ改修, 非構造部材耐震点検調査・実施設計)	5,007 千円
◇辰口中央小学校施設整備事業 (体育館下屋根改修, 非構造部材耐震点検調査・実施設計)	4,920 千円
◇辰口中央小学校防音空調整備事業 (機械設備, 電気設備, 建築)	155,206 千円
◇宮竹小学校施設整備事業 (プールろ過材取替, 非構造部材耐震点検調査)	2,104 千円
◇和気小学校施設整備事業 (正面玄関扉改修, 非構造部材耐震点検調査)	1,219 千円
◇和気小学校空調施設整備事業 (機械設備, 電気設備)	18,846 千円
◇根上中学校施設整備事業 (電話機改修, 非構造部材耐震点検調査)	2,184 千円
◇寺井中学校施設整備事業 (普通教室改修, 電話機改修, 非構造部材耐震点検調査)	34,341 千円
◇辰口中学校施設整備事業 (消火栓ポンプ改修, 電話機改修)	5,159 千円
◇辰口中学校講堂建設事業 (実施設計)	13,284 千円

評価

- ・教育環境の充実を目指して整備を進めてきました冷暖房設備の整備について、辰口中央小学校（Ⅱ期工事）と和気小学校の工事が完了しました。これにより市内小中学校の普通教室における冷暖房整備率が 100%となりました。
- ・2ヶ年にわたって老朽化改修を進めてきました寺井小学校の大規模改造工事（Ⅱ期工事）が完了しました。老朽化していた内装の改修のほか、洋式トイレの割合増加や多目的ト

イレの新設、照明機器の増設等、ニーズに応じた整備を実施し、教育環境の向上を図りました。

・東日本大震災発生以降、全国的な懸案事項となっています学校施設の非構造部材（吊り天井等）の耐震化について、吊り天井を有する市内小中学校 9 校の体育館および講堂の点検調査を実施しました。そのうち浜小学校、福岡小学校、栗生小学校、辰口中央小学校の 4 校については H27 年度に耐震工事を実施します。残りの 5 校についても順次、耐震工事を実施し、安全安心な学校施設の整備を図っていきます。

・市内全小中学校で唯一、学校専用の講堂が整備されていなかった辰口中学校について、講堂建設の実設計が完了しました。H27 年度には工事を実施し、年度内の完成を目指します。これにより各種式典や体育の授業、部活動等での幅広い利用が見込まれ、生徒達の心身鍛錬や健全育成の場として、有効に活用される予定です。

○意見

学校は、児童・生徒が一日の大半を過ごす「学び、生活の場」としての「公の施設」であり、ましてや、通常備えるべき安全性を欠いた状態たる「瑕疵」があってはなりません。

学校施設の整備は、児童・生徒の最善の利益を前提にして行われる必要があります。所管する学校の冷暖房設備整備の 100%達成、老朽化施設設備の改修、学校施設の耐震化促進などの施策の推進は、評価したいと思います。

学校施設などの教育環境の整備は、教育の「物的環境の整備」という面がないわけではありませんが、同時に教育活動という教育の「内的・質的」整備という側面があることから、不断な取組みが求められます。さらに、地域の災害等の非常時には、地域住民のための「避難所」、「生活の拠点」となる場合があることから、空調整備、多目的トイレ等の整備に可能な限り取組まれますよう期待いたします。

施策 2 青少年の健全育成

青少年の心豊かな人間性を育む地域形成を目指し、地域・学校・家庭が相互に連絡・協力し、地域活動の体験・研修を推進します。

1 青少年教育

平成 26 年度の主な取組

◇ 青少年健全育成事業（439 千円）

- ・ 各種会議
 - ◇ 青少年健全育成センター運営協議会の開催
- ・ パトロール
 - ◇ 夏休み期間中及び九谷茶碗まつり、七夕まつり、辰口まつりの際にパトロールを実施

- ・ あいさつ
 - ◇ 市内小学校5年生にあいさつ標語を募集
488作品の中から入賞作品を決定【最優秀賞（8名）優秀賞（9名）】
最優秀賞作品については看板を作成し、各小学校に掲示

◇ 心の教育関連事業（1, 108 千円）

- ・ 家庭教育推進事業
 - ◇ 「親子のふれあい」や「青少年の豊かな心を育む家庭教育のあり方」をテーマに取り組んだ計44団体(保育園, 小中学校, 子育て支援センター)に対して活動補助
- ・ 地域教育推進事業
 - ◇ 子供たちを核に「地域のふれあい」や「青少年の健全育成」をテーマに, 1年を通して取り組んだ市内4団体に対して活動補助
- ・ ふれあいあいさつデー
 - ◇ 毎月15日を「あいさつデー」とし, 各町で公民館, 学校PTAを中心に実施
 - ◇ 9月1日(月)~5日(金)を強化週間として平日5日間に開催(延べ約3, 130人が街頭に立つ)
 - ◇ あいさつデー啓発ポスターは寺井中学校3年生道田夏生さんの作品を採用
- ・ 野外体験
 - ◇ のみ♡子育てネットワークと児童・子育て専門部会が共催し, 子供たちのたくましい豊かな心とからだを育てることを目的とした, 冒険企画「ぼくもわたしもトムソーヤ! 2014」を開催しました。本活動は, イワナつかみや陶板焼き, キャンプファイヤーなどを通して, 野外で活動できる力を身につけるものです。
事業終了後, 保護者と子供達にアンケートを実施し, 下記の通り感想をいただきました。感想の多くに“様々な体験を通して, 親子ともに成長することができて良かった”とのお声をいただきました。

感想

- ・ いろいろな人と友だちになれてとても嬉しかったし, 自分の事を自分でいっぱいして学んだこともあったので, これからもその事を生かしていきたいです。
- ・ 知らない人と友だちになれたので良かったなあと思いました。
- ・ ふだん家や学校で協力はあまりしていないので, ここでみんなで協力し合えて良かったと思いました。
- ・ 自分の事は全部自分でやるから大変だったけど楽しかった。
- ・ 子供も大人も初めての事にチャレンジ出来て, とても良い思い出作りができました。

- ・自分で考えて行動する子供の姿を見て、とてもたくましく感じる事が出来ました。
- ・子供達にこのような自然と親しめる場を提供して頂きありがとうございます。

など

・講演会

未来の能美市を担う子供の成長を願い、地域の子育て応援力をアップしようということを目的に児童子育て専門部会が主催となって、市民の方を対象に開催しました。

日 時：平成 26 年 11 月 14 日（金） 19：00～
開 場：寺井地区公民館 101 会議室
講 師：山岡 信夫 氏（能美市子ども発達支援センター）
演 台：子育て応援 ～今、地域に求められていることは～
参加人数：45 名

評価

- ・毎月 15 日を「ふれあいあいさつデー」とし、あいさつ運動を実施することによって、小・中学生の規範意識を高めています。15 日以外にも、自主的にあいさつ運動を実施している町会・町内会もあり、市民の中で心の教育をあいさつからはじめるといった意識がみえてきています。
- ・能美市のお祭り（根上七夕まつり、九谷茶碗まつり、辰口まつり）と子供たちの夏休み期間中に、パトロールを実施しています。実施中声かけを行うケースは、稀にある程度なので、今後は時間帯の変更や、人数の再構成を検討する必要があります。
- ・能美市内の親子 37 組 106 名（スタッフ含む）を対象に、1 泊 2 日の宿泊研修を実施しました。アンケートの結果からうかがえる通り、自分のことは自分ですることによって、親子ともに成長できる良い研修になったことがうかがえます。
- ・講演会では、講演後にグループワークを設け、それぞれが感じたことを言い合うことで、参加者の心に話の内容がより残ったのではないかと思います。
- ・平成 27 年度からは、さらなる子どもの健全育成を目指すため、親子対象のイベントを実施し、みんなで協力しながら、いきいきと体を動かすことで、元気で人とのつながりを大事にする子どもの育成に努めていきます。

○意見

次代を担う青少年を非行から守り、より健全な方向へと育てることは、先行する世代たる大人の役割です。能美市では、毎月 15 日を「ふれあいあいさつデー」として設定し、あいさつが、家庭の中だけでなく、地域においても交わされるようになるなど、徐々に地域ぐるみで「地域の子どもを育てる」活動の裾野が広がっているように思われます。

野外体験活動である「ぼくもわたしもトムソーヤ！」事業は、その企画、運営、実施、事後指導などの面において様々な工夫が求められる事業と思われまます。主として冒険的側

面を重視した体験活動ですが、事業全体を安全に遂行することはもちろんのこと、繰り返されることのない貴重な経験、非日常的な活動から様々な「知恵」のやりとりが期待される学びの機会であったことをうかがい知ることができます。実施、受け入れ体制などの課題はありまじょうが、例えば、夏のトムソーヤ、冬のトムソーヤなども企画案として考えられるか、と思います。

施策3 生涯学習の推進

市民一人ひとりの生きがいや心の豊かさを実現するため、学習環境づくりや公民館活動などを核とした連帯と活力ある地域づくりを推進します。

1 これからの国際化社会の中で活躍できる人材の育成と国際化の推進

平成26年度の主な取組

◇国際交流員招致事業（4, 226 千円）

国際交流員を招致し、国際理解や多文化共生社会の推進に努めました。

◇国際交流推進事業（1, 790 千円）

・国際交流イベントの開催

市内小学生を対象にハロウィン、イースターを体験するイベントを実施。海外の文化を体験するロシア風新年会を設けました。

・外国語講座、日本語講座の開催

国際交流に必要とされるコミュニケーション能力をつける外国語講座として、国際交流員による英会話初級、ENGLISH ONLY CLASS、中国語講座初級、ロシア語講座初級、国際交流サロンを開催しました。

市内在住・在勤の外国人を対象に日本語講座を開講しています。

また、日本語教室の講師不足により、平成25・26年度にわたり日本語教室講師養成講座を計50回開講し、10名以上の新講師が誕生しました。

・ジャパンテント

世界様々な国と地域から石川県を訪れた300人の留学生と県民との交流を深める

「第27回JAPAN TENTー世界留学生交流・いしかわ2014」が開催されました。

本市では16ホストファミリーが22名の留学生を3泊4日の日程で受け入れました。

九谷焼絵付け体験、和菓子作りと煎茶体験、辰口まつりのじょんから踊りコンクール参加等“能美市ならではの”のプログラムで留学生をもてなしました。

・ボランティア通訳

外国人市民の生活を支援することを目的として「能美市ボランティア通訳登録制度」を実施。4言語・23人の登録があり、市内学校や市役所窓口・九谷焼資料館などへ派

遣しました。

◇関連団体交流活動等支援（230 千円）

市内の国際交流活動を行う 3 団体（石川県白山ユネスコクラブ、能美市日中友好協会、N o m i 国際交流協会）に対し、活動補助金を交付しています。

評価

国際交流員が中心となり、市民が国際交流員の出身国文化を学んだり、国際交流に必要なコミュニケーションツールとして英語を学ぶ機会を創出し、国際理解推進の機会を整えています。

日本語教室は市内全域で外国人住民に日本語を学ぶ機会を創出しています。講師不足という問題を解消するため、平成 25 年度 26 年度の 2 カ年にわたり日本語教室講師養成講座を開講しました。その結果、新講師が 10 名以上誕生し各教室で活躍しています。

言葉が通じないことで発生している、市内外国人の生活の不便を解消するために、平成 25 年度「能美市ボランティア通訳登録制度」を制定。今年度は、市役所窓口での手続きなどの他に、学校での個人面談や就学相談による利用が増えています。また、登録者にとっても能力を發揮できる機会を提供しています。

○意見

地球的視野で考え、身近なところから取り組もうという、think globally, act locally という言葉があります。能美市では、国際交流員の招致、国際交流イベント、外国語教室、日本語教室講師養成講座、通訳ボランティア登録などの事業に取り組まれながら、市民や子どもたちに海外の文化に触れる機会を提供し、国際化への対応に臨んでいるところですが、より一層の多文化理解、多文化共生に資するような事業の創出を期待します。

2 生涯学習活動

平成 26 年度の主な取組

◇まなびフェスタ 2015（529 千円）

日 時 : 平成27年2月22日（日） 午後1時30分から
会 場 : 根上総合文化会館 根上学習センター
趣 旨 : 市民が一体となってまちづくりをしていくためには、市民一人ひとりが地域社会の構成員として自主的に活動し、実践していくことが重要です。本会は、市民がお互いに話し合い、体験する中から新しいまちづくりが推進されることを目的としています。

「広がれ つながれ 人の和 能美の輪」をスローガンに、7 分科会に分かれてテーマごとに意見交換を行いました。また、文化活動を気軽に体験し、生涯学習への一層の興味、関心を持っていただくため、5 つのお試し体験講座を行いました。

No. 1 分科会

「ちまたで大人気！ ★脂肪燃焼★コアトレーニング！」
～いつでも どこでも だれでも いつまでも～

No. 2 分科会

「男女（とも）に学んで再発見」
～これからの家族のかかわり方を見つけよう～

No. 3 分科会

「紙芝居を楽しみましょう」
～みんな笑顔に～

No. 4 分科会

「九谷焼の新しいデザインを考える」
～最先端のデザインと“美の器”～

No. 5 分科会

「エンディングノート」を書いてみよう！
～終活の『初めの一步』～

No. 6 分科会

「税金はどこへいった？」
～税金の行き先がわかるウェブサイトをみんなでつくろう～

No. 7 分科会

「農（生産者）と食（消費者）の交流会」
～おいしい☆しあわせ☆顔の見える関係づくり～

No. 8 お試し体験講座

「おもしろロシア語」
～世界一難しい言葉は意外と身近～

No. 9 お試し体験講座

「星空の時間旅行」
～プラネタリウムの魅力を体験しよう～

No. 10 お試し体験講座

「モビールを作ろう」
～風に揺れる素敵北欧のインテリア～

No. 11 お試し体験講座

「ダンスワークショップ ダンスをやったことなくても大丈夫！」
～みんなで一緒に体を動かすと楽しいよ！～

No. 12 お試し体験講座

「親子で共に体験」
～お菓子とお抹茶を楽しく～

参加者アンケートから

・いろいろな世代の方とお話ができ新鮮でした。

- ・子どもと一緒に参加できて良かった。
- ・気になる講座に参加し、これから先のことを考える良い機会になりました。
- ・勉強することの楽しさについて、改めて感じた。
- ・知ることで気づくこと、発信できることが出来ると思いました。自分にできる発信をしようと思います。
- ・開催会場を根上だけでなく、辰口・寺井地区でも開催すべき。
- ・新しいことに会うのは、楽しい。
- ・近くに座られた方と交流もできました。有難うございました。
- ・ぜひ、継続してほしいと思います。
- ・複数に参加できるよう、時間帯をずらすということも、ご検討いただけると嬉しいです。

◆参加者（男女別）

男性	41% (159 人)
女性	59% (225 人)

◆今回参加された分科会・お試し体験講座について

大変参考になった	48% (86 人)
参考になった	50% (91 人)
あまり参考にならなかった	2% (4 人)

評価

○まなびフェスタ

お子さんからご年配者までご参加いただきました。どれも市民による手作りの会で身近な内容で、何事も最初の一步から始まります。

市民と行政が対等の立場で互いの役割を果たしながら目標に向けて連携し、市民一人ひとりが地域社会の構成員として自主的に活動し、実践していくことが重要です。地域の伝統工芸である九谷焼について考えたり、地元で活躍している講師の方から学ぶことで、暮らしに結び付いた学びとなることを期待しています。

「まなびフェスタ」では、市民が話し合い、体験する機会を創出し、市民のまちづくり意識を高め、「協働型まちづくり」の推進を目指しています。

○意見

「広がれ つながれ 人の和 能美の輪」をテーマにした学びフェスタは、地域住民の「学び」をメインにした交流の機会であるとともに、日々の学習の成果の発表の機会でもあります。昨年度も、開催日時や期間、場所などを記載されるよう求めましたが、今年度も記載はありませんでした。

それはともかく、多くの市民が、「昨日と違う今日の自分、今日と違う明日の自分づくりへの営み」としての学びの意義を、自らあるいは仲間とともに確認し合う機会となるものと思います。7つのテーマでの分科会、5つのお試し体験講座が企画されましたが、

特に分科会での協議や協議の到達点を次年度のフェスタに継承できるような仕掛けや仕組みについて検討しても良いのではないのでしょうか。開催会場がいずこなのかはわかりませんが、能美市は、東西にひろがった特徴を持つので、その特徴を活かした開催会場の設定も参加者層の拡大や雰囲気の変化の一助となるかもしれません。

3 公民館活動の推進

平成 26 年度の主な取組

◇成人式(1, 286 千円)

成人の日を迎える若者を祝い励ますと同時に、社会の一員としての自覚を深め、社会に羽ばたいてくれることを期待して開催しました。

開 催 日 平成 27 年 1 月 11 日 (日)

会 場 根上総合文化会館

時 間 10 時開式

参加者数

地区	性別	実参加者数	参加対象者数	参加率
根上	男	79 人	91 人	86.8%
	女	95 人	106 人	89.6%
寺井	男	82 人	104 人	78.8%
	女	94 人	101 人	93.1%
辰口	男	72 人	88 人	81.8%
	女	63 人	74 人	85.1%
計	男	233 人	283 人	82.3%
	女	252 人	281 人	89.7%

◇立志式 (236 千円)

14 歳の少年・少女に、自ら将来に臨んで志を立て、次代を担うものとしての誇りと自覚、さらにこれを実践するための健康な心身をつくることを目標に持たせるため、実施しました。平成 25 年度も 3 中学校同時に開催しました。

○式典

日 時：平成 27 年 2 月 4 日 (水) 14:00～

開 場：根上総合文化会館 音楽ホール「タント」

参加人数：根上地区 186 名

寺井地区 201 名

辰口地区 169 名 計 556 名

○記念講演

講 師：ブシマキン バジム 氏 (能美市教育委員会生涯学習課)

演 題：「多文化共生とは何か ～日本の将来と多文化共生を考えよう～」

◇総合文化祭

〈展示部門〉(305 千円)

日 程 文化協会：11 月 1 日（土）～11 月 3 日（祝・月）

一般展示：11 月 7 日（金）～11 月 9 日（日）

会 場 文化協会：根上総合文化会館，根上学習センター，寺井図書館，辰口福祉会館

一般展示：根上総合文化会館

内 容 展示を 2 週に分けて実施しています。1 週目はいけ花，川柳などの市文化協会作品。2 週目は地区公民館，CC 館，児童館，そのほか各教室，サークルの作品を展示しています。

〈発表部門〉(730 千円)

○ジュニア文化発表会

日 程 10 月 29 日（水）

会 場 根上総合文化会館音楽ホール「タント」

内 容 市内小・中学校の児童・生徒が元気いっぱい合唱や演奏を披露しました。

○市民文化・芸能大会

日 程 11 月 8 日（土）

会 場 根上総合文化会館音楽ホール「タント」

内 容 市内の自治公民館及び市内で活躍しているサークル・団体がこの日のために練習してきた出し物を披露しました。

◇ 公民館活動(17, 077 千円)

○自治公民館

・能美市自治公民館協議会

期日	行事名	会場
1 月 9 日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
2 月 18 日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
2 月 25 日	能美市自治公民館協議会 総会	寺井地区公民館
3 月 19 日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
4 月 15 日	百万石ワールドカフェとの打合せ会	さらい
6 月 5 日	百万石ワールドカフェとの打合せ会	寺井地区公民館
7 月 5 日	能美市自治公民館交流会ワールドカフェ 45 名参加	さらい
9 月 1 日～5 日	ふれあいあいさつデー（強化週間）	市内一円
9 月 17 日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
11 月 8 日	第 10 回能美市民文化・芸能大会 18 公民館参加	根上総合文化会館
11 月 15 日	能美市自治公民館協議会 視察研修会	能美市内 3 地区

・根上地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
1月23日	根上地区自治公民館協議会 総会	八松苑
3月13日	根上地区自治公民館協議会 館長会	根上総合文化会館
4月23日	根上地区自治公民館協議会 館長会	根上総合文化会館
5月25日	第10回スポーツフェスティバル in ねあがり	浜小学校グラウンド
5月31日～8日	花いっぱい運動	根上地区
6月18日	根上地区自治公民館協議会 館長会	根上総合文化会館
6月28日	根上地区自治公民館協議会 視察研修会	加賀市内
7月26日	根上七夕まつり「踊りの夕べ」コンクール	根上総合文化会館 駐車場周辺
8月21日	根上地区自治公民館協議会 館長会&「講演会」	根上総合文化会館
11月8日	第10回能美市民・文化芸能大会	根上総合文化会館
11月19日	根上地区自治公民館協議会 館長会&「出前講座」	根上学習センター
12月18日	根上地区自治公民館協議会 館長会・懇親会	大成町リード

・寺井地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
2月7日	寺井地区自治公民館協議会 総会	クアハウス九谷
6月21日	寺井地区自治公民館協議会 視察研修会	富山市岩瀬方面
6月29日	寺井地区さわやかグラウンドゴルフ大会	寺井グラウンドゴルフ場
7月13日	寺井地区クリーンデー	寺井地区町内一円
8月28日	寺井地区自治公民館長・体育部長会&「出前講座」	寺井地区公民館
10月5日	第10回 スポーツフェスティバル in たらい	寺井小グラウンド
10月12日	第10回 寺井地区一周駅伝競走大会	寺井地区各町内一周
10月12日	第10回 寺井地区ソフトバレーボール大会	寺井体育館
12月10日	寺井地区自治公民館協議会 館長会	長沖（小松市）

・辰口地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
2月11日	辰口地区自治公民館長会 総会	辰口福祉会館
6月22日	辰口地区自治公民館長会 視察研修会	長野県小布施町，須坂市
(中止) 10月5日	第10回スポーツフェスティバル in たつのくち	物見山陸上競技場
12月23日	辰口地区自治公民館長会(秋季研修会) 講演会	辰口福祉会館

○ 地区公民館

・根上地区公民館

期日	行事名	会場
2月27日	第1回根上地区スポーツ協議会	根上総合文化会館
5月25日	第10回スポーツフェスティバル in ねあがり	浜小学校グラウンド
7月26日	根上り七夕まつり「踊りの夕べ」コンクール	根上総合文化会館周辺
8月4日	第2回根上地区スポーツ協議会	根上総合文化会館
9月20日	国際交流サロン in 能美 2014	根上学習センター
11月8日	第10回市民文化・芸能大会	根上総合文化会館

・寺井地区公民館

期日	行事名	会場
4月10日	第1回寺井地区公民館運営委員会	寺井地区公民館
6月29日	寺井地区市民さわやかグラウンドゴルフ大会	寺井グラウンドゴルフ場
6月29日	三世代ふれあい子ども体験まつり	寺井地区公民館
7月13日	寺井地区クリーンデー	寺井地区一円
10月5日	第10回スポーツフェスティバル in てらい	寺井体育館（雨天のため）
10月12日	第10回寺井地区一周駅伝競走大会	寺井地区一円
10月12日	第10回寺井地区ソフトバレーボール大会	寺井体育館
11月8日	第10回市民文化・芸能大会	根上総合文化会館
11月20日	第2回寺井地区公民館運営委員会	寺井地区公民館
11月30日	国際交流サロン in 能美 2014	寺井地区公民館

・辰口地区公民館

期日	行事名	会場
5月25日	国際交流サロン能美 2014, わいわいハッピー	和気あいあいの里ハッピー場
6月28日	能美市でホテルを見よう! 「ホテルの観察会」	ふるさと研修センター
8月8日	夏休み手作り工作体験教室「飾り棚をつくろう」	ふるさと研修センター
(中止) 10月5日	第10回スポーツフェスティバル in たつのくち	物見山陸上競技場
平成27年3月21日	平成26年度, 体験教室 しいたけの植菌	能美市立博物館

評価

○公民館

公民館は、生涯学習の拠点として様々な事業を実施しています。公民館には、大きく分けて地区公民館と自治公民館があります。

地区公民館は、自治公民館間のコーディネーター的な立場として、自治公民館同士の結びつきを強める役割を担っています。その具体的な活動として、地区公民館で開催する事業

の情報を提供したり，自治公民館からの情報を集約したり，懇談会や研修会などを開催することがあります。

自治公民館は，町内単位や小学校単位で活動しているところもあり，地域コミュニティ形成に必要不可欠な存在になっています。今後は，地区公民館を中心に，自治公民館同士の交流をさらに強め，市内一丸となって地域を元気にすることが求められます。

○成人式

成人式は3会場(根上，寺井，辰口)に分かれて開催されていたものを一会場にまとめました。初めての一会場での開催でしたが大きな問題はなく，厳粛なうちに終了することができました。式典の運営については実行委員制度を採用しており，新成人の中から実行委員を選び，式典内容の企画・運営をしました。実行委員の他にも，式典協力者(子から親への感謝の手紙など)や受付協力者を募り，新成人の力で成人式を運営するような形となりました。その他にも実行委員は，恩師からのビデオメッセージの作成，保育園から中学校までの思い出を写真としてまとめたスライドショーの作成にも取り組みました。成人者と家族にアンケート調査を行った結果，一会場での開催については，大人数になるため混雑するが，高校の頃の友達にも会えるところが良いという意見が多数ありました。

○立志式

立志式は，14歳の少年少女が，自ら将来に臨んで志を立て，次代の社会を担う者としての誇りと自覚，さらにこれを実践するための健康な心身をつくることを目標に，青年への新しいスタートに立つ日を「立志の日」として祝い，励ますものです。

式典中に行った「立志の言葉」では，立志者の代表らしく堂々と発表しており，まさしく志を立てるのにふさわしいものであったと感じました。式典後の記念講演についても，講師であるブシマキン・バジム氏の多文化共生についてのお話を聞くことによって，これからの社会について考える良い機会となり，生徒にとって，非常に参考になるものでした。

○文化祭

文化祭事業は，発表部門と展示部門に分かれています。

発表部門では，文化協会や市内小・中学校の児童・生徒，市内の自治公民館及びサークルが，日頃の練習の成果を発表しています。文化祭での発表を各団体の目標として設定することにより，練習にも意欲的に取り組むことができます。また，他の団体と合同で発表会をすることにより，団体間での連携が深まっています。

展示部門では，文化協会，各地区公民館での開催教室，児童館，コミュニティセンターなどが，展示に向けて作品を製作しており，文化的な活動を推進するものとなっています。

期間中に開催されているお茶席や将棋大会では，参加者が体験することもでき，見る以外の楽しさも含まれる事業となっています。

また，作品の展示や体験教室が，教室の宣伝効果となっている団体もあり，講座や教室への参加者を増やすための良い機会となっています。

○意見

評価者は、常々、公民館は、地域住民に対し学びの機会を提供する「公民の館（やかた）」であるとともに、行政や地域の各種団体・機関と地域住民との「間（あいだ）」に位置し、必要に応じて地域住民と行政とを結ぶ公民「間」、地域住民にひとや体験・自然等との出会いの場を提供しその「感性」を豊かにする公民「感」、社会のしくみや地域課題などの学びを通じて人生観や職業観などものの見方や考え方に影響を与える可能性を持つ公民「観」、地域住民に地域で生き、暮らし、働き、支え合いそして学び合う歓びを提供する公民「歓」、地域住民を強い絆で結び強固な環を形成することに貢献する公民「環」、魅力的で活力ある地域づくりの中核的な「幹（みき）」となる場、あるいは地域づくりの担い手、リーダー（幹）を育てる公民「幹」というようにとらえています。

地区公民館が自治公民館間のコーディネーター機能を発揮しながらも、地域の町内レベルの「自治公民館」も上述したような位置づけで事業や活動を推進していただければ、地域住民の絆やつながりづくりにより一層寄与することになるのではないのでしょうか。

また、地区公民館は当該地域の自治公民館への情報提供や必要な助言等を行い、市民の生涯学習活動の裾野の拡がりにさらに尽力して下さるよう期待いたします。このことは、文部科学省の第2期教育振興基本計画の4つの柱の4番目、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の具現化に寄与するものとなるのではないのでしょうか。さらに、可能であれば、地区公民館に社会教育主事有資格者を配置するなどについてもご検討いただけたら、と思います。

成人式や立志式は人生の一つの区切りであるとともに、新たな自分のスタートの意味を持つ儀式です。実行委員会形式による成人式、しかも一会場での開催は厳粛に行われたとのことであり、企画・運営に携わった実行委員会や式典協力者に「自己肯定感」「自己尊重の意識」を育てる機会になるもので、大切な「若者育て」の機会、次代の「幹」育て、社会参画の機会の提供となるものです。

また、総合文化祭事業も、市民の日頃の活動の発表、交流の機会であり、参加者の生きがいややりがいを育てる機会になるものであり、この事業もまた、新たな学習者を開拓する機会となるのではないかと思われ、より一層の創意工夫を期待いたします。

4 社会教育施設の運営

◇市立図書館（129, 665 千円）

3館（根上・寺井・辰口）連携して、図書館の運営方針に基づき、生涯学習の拠点として、地域に根ざした図書館づくりをめざしました。

平成 26 年度の主な取組

- ◎図書館資料の充実・・・3館の持ち味を生かした資料収集。
- ◎レファレンスサービスの充実・・・利用者や市民の調査，研究の援助。
- ◎読書普及活動の推進・・・おはなし会や講演会等の開催や他機関との連携事業等，年代に応じた読書普及活動。
- ◎Web 予約サービスの開始
- ◎図書館利用拡大事業

図書館がより“本と人”・“人と人”・“人と知”が出会い、交流する場となることで能美市の暮らしやすさを向上できるという意図のもと、下記事業を昨年度に引き続き、企画実施しました。

- ・根上図書館・・・ビジネス支援事業
高校生を対象とした就活講座の開催・ビジネス書の収集など
- ・寺井図書館・・・子育て支援事業
親子コンサート、子育て講座の開催
- ・辰口図書館・・・合格図書館
合格図書館（学習室開放）
子供向け企画（おばけやしき図書館）

◎利用状況（平成 27 年 3 月末統計）

・蔵書数	396, 293 冊
・登録者数	39, 138 人
・貸出者数	122, 094 人
・貸出冊数	508, 872 冊

評価

市立図書館

- ・図書館運営方針に基づき、予算の有効活用と 3 館の特色を生かしたバランスある資料収集に努めました。
- ・「能美子ども読書活動推進計画」に沿って、年代に応じた読書活動の推進に努めました。活動内容としては、乳児へのブックスタート事業、保育園への出張おはなし会、小中学校への移動文庫やブックトーク等を実施し、各機関との連携を図りました。
- ・各図書館それぞれの活動のほか、読書スタンプラリーなど合同での開催事業を行いました。
- ・職員の専門的力量的向上を図るため、全員参加の職員研修を行いました。
- ・Web 予約サービスを開始し、利用者サービス向上を図りました。
- ・図書館利用拡大事業への取り組み

根上図書館（ビジネス支援事業）

- ・就職や専門学校進学希望の寺井高校生を対象に、職業選択の意識付けを目的とした就活講座を開催しました。今年度は、(株)徳野製作所 代表取締役 徳野 伸彦氏による講演に、210 名の参加がありました。
- ・一般ビジネス書コーナーや高校生や大学生向け職業教育コーナー、子育て世代を対象にした就職活動関連本の書架を設置し、利用しやすい配架としました。ビジネス書等を充実させたことにより、30 代から 40 代の登録者が増加し、利用拡大につながりました。
- ・8 月 18 日（月）～8 月 29 日（金）までの期間、延長開館（20：00 まで）を実施し

ました。

寺井図書館（子育て支援事業）

- ・二胡と語りのコンサート

子育て中の親子から一般の方を対象に、二胡と語りのコンサートを実施しました。35名の参加がありました。

- ・子育て講座

子育て中の方を対象に、「読み聞かせが育てる思いやり～大人も楽しむ読み聞かせ～」と題し、太郎田医院小児科医 多賀千之氏による講座を実施しました。

19名の参加がありました。

託児は地域の子育てグループに依頼しました。

辰口図書館（合格図書館）

- ・合格図書館

1月上旬～3月初旬までの10日間（日祝日）、2階研修室を学習室として開放しました。先端大学学生に支援員を依頼し自己の経験や意見をまとめたアドバイス集を合格図書館利用者に配布しました。のべ、66人の利用でした。

- ・子供向け企画（おばけやしき図書館）

夏の夜のおはなし会を企画し、こわい本を読みきかせるおはなし会のあと、おばけやしきに見立てた研修室で、来館した子どもたちにおばけやしきを体験してもらいました。親子113人の参加でした。

- ・利用拡大事業については、図書館事業として定着してきたので、平成27年度からは、各館の事業の一部として取り組むこととして、今後は、各館の特色を生かした新たな活動目標を見つけることが課題となります。

○意見

市内の根上、寺井、辰口の各市立図書館が、それぞれ「ビジネス支援」「子育て支援」「合格図書館」をメインにしながら、市民の皆さんに「ホン」を中心に事業展開し、その成果が自己評価として示されておりました。巷間、活字離れが指摘される中、改めて「活字」文化の提供拠点であるとともに、様々な知的情報提供を通じた「知」の拠点であることをふまえ、図書館活動の推進に取り組まれますよう期待します。また、どれほどの地域ニーズがあるかは不明ですが、地域の産業の支援に寄与する図書館事業の企画についても考慮いただければ、と思います。

なお、図書館法の規定のとおり、図書館の取組は、単なる事業や活動とは異なる「図書館奉仕」であるということ館活動の基本、「肝」としていただければ幸いです。

◇根上総合文化会館（123, 462 千円）

能美市の文化交流拠点と位置付け、利用促進に向けたさまざまな事業を行っています。特に日本で初めて可動音響底を採用した本格的なシューボックス型の音楽ホール「タント」では、市、市教育委員会の主催事業をはじめさまざまな催し物が年間を通して開催されています。

利用状況（平成 26 年度）

年間利用件数	2, 709 件（平成 25 年度	3, 388 件）
年間利用者数	129, 587 人（平成 25 年度	135, 520 人）

評価

市内外の企業、学校、生涯学習活動団体等から、会社説明会、展示・発表会、練習、講座を開催する際にご利用いただいています。

また、平成 25 年度よりこれまで 2 箇所に分散されていた教育委員会の機能を集約した能美市根上分室として教育行政の中核としても活用されています。

根上総合文化会館主催事業として、タント寄席、映画上映会、ミュージカル「クリスマスキャロル」等幅広い演目のイベントを開催し、文化交流を広く行っています。

なお、平成 26 年 10 月に根上総合文化会館は開館 20 周年を無事迎えることができました。今年度も幅広い世代に喜んでいただくため、収集したアンケート結果を基に改善や創意工夫をし、取り組んでいます。利用者の皆様のご愛顧に感謝するとともに、これからも利用者の満足度が上がるような利用環境の向上、広報活動に努めます。

○意見

根上総合文化会館が、文化活動の殿堂的な施設として学習活動団体の利用だけではなく、学校や企業の利用に供され、それぞれの団体や機関の活動の支援に資していることは重要なことと思います。併せて、主催事業の企画にも創意工夫されておられることと存じますが、利用者のニーズを丁寧に把握し、それに真正面から応えることとなる事業活動の推進を期待いたします。

開館 20 周年という輝かしい歴史を刻み、かつ「タント」として親しまれている根上総合文化会館が、さらなる未来に向けた歩みとなる事業の推進に取り組まれますことを期待いたします。

◇根上学習センター（35, 742 千円）

宇宙といん石をテーマとした「子ども宇宙科学室」、茶室「松海庵」、「国際交流サロン」のほか「根上図書館」を含め多様な生涯学習の場の複合施設として、幼児から高齢者までが集い学習や交流を深めることを推進しました。

平成 26 年度の主な取組

児童・生徒の科学に対する興味、関心を高めるため、主催事業においては金沢大学名誉教授を指導顧問に、また、教職員、星の会、根上いん石に関係する皆様には委員とし

て、主催事業の企画運営について検討していただき事業を実施しました。

- 1 当市には自動車のトランクに落下した根上いん石があることから、市内全校小学4年生を対象とした「星空といん石学習」、中学3年生を対象とした「いん石講演会」、プラネタリウムでの星空学習などをおして、はるか遠き宇宙を身近に感じ、ひとりでも多くの児童・生徒に宇宙への関心を持っていただけるように努めました。
- 2 おもしろ科学教室、おもしろ理科教室、ガリレオクラブ等をおして身の周りにある多くの不思議に気づき、発見させる機会を持っていただき、ひいては学校教育の一助になればと、指導される先生方を中心にそれぞれの教室の運営に力を注いできました。また、プラネタリウムを使っての星空教室、当センター屋上での望遠鏡を使っての星空観察会は、子どもから高齢者までの方々を対象に、星の会の皆様が星空の解説を行いました。
- 3 夏休み期間にはサイエンスフェスタと銘打ち、小学校の先生方による科学の実験、実演、「科学の館・屋台店」、科学の遊び「手づくりミュージアム」、根上いん石の展示など、工夫を凝らした企画を行い、子どもたちに科学をより身近に楽しく感じてもらえるように努めました。

評価

主催事業は、子どもたちにとって楽しみながら学べるよい機会であり、それぞれの教室をおして子どもたちの科学への興味、探究的な態度を育てることは、身の周りにある多くの不思議発見と感動へ繋がるものでありますが、残念ながら実施テーマによっては参加者の減少傾向が見受けられます。

参加者の増加に向けた取り組みとしては、保護者の理解と周知が大事であり、問題点の掘り起しと周知への方策など、主催事業企画運営委員会のご意見を頂くとともに、これからも指導者の確保に向けた新たな人材の発掘を図り、運営に努めていきたいと思ひます。

施設は市民の交流の場や生涯学習の場として研修室や教室が有効に使用されており、今後も施設の活用が十分に図られるよう努めていきたいと思ひます。

意見

様々な学習機能の複合施設としての根上学習センターですが、特に科学への関心を育てるための活動は、貴重なものと思われまひます。金沢大学市・町共催講座として実施している3中学校生徒対象の科学の講座「いん石講演会」も大切な企画と思われまひます。もちろん専門性を期待されるがゆえに、運営にも何かとご苦勞がおありかと思ひまひますが、一定の専門性をもつとともにご自身の学びの成果を生かしたいというお考えをお持ちの地域人材の協力支援を得ながら、その活動の範囲をさらに広げ、センターの使命をよりいっそう果たしていただけるよう願っています。

◇根上青年の家（11, 352 千円）

青少年やその他の団体の集団宿泊訓練や共同学習の場として、規律ある活動を通して安全有為な人間教育を図る施設として多くの方々に利用されています。

又ロシア、シレホフ市との姉妹都市交流や、根上中学校と韓国培材中学校と姉妹校交

流の場として、多くの市民に楽しまれています。

平成 26 年度の主な取組

- 1 施設は老朽化し、時代の流れに対応できず、小規模な修理・改修を実施し、利用者に安全で安心のある場を提供できるよう努めました。
- 2 主催事業を実施し、団体宿泊研修をとおして、子供達が楽しく交流し「想像力や協調性、思いやり」ある心を育て、また自主的な生活態度を身に付けてもらえるよう努めました。

評価

施設は「集団宿泊訓練や、共同学習の場」として利用されていますが、40 年経過しており、施設の改廃を含め、検討の時期を迎えています。

子どもたちが「想像力や、協調性、思いやり」ある心を高めていけるように、今後とも主催事業の企画運営に努力し、施設の活用が十分に図られるよう努めていきたいと思っています。

○意見

青年の家は、青少年教育の施設として、これまで集団宿泊訓練を中心にしながら青少年の自主性や協調性を育成に努めてこられたことと思います。ただ、評価欄に記されているように、風雪に耐えながらも 40 年を経た「物的」施設は、歴史相応の痛みがあろうかと思っています。改廃を含めた検討の時期ではありまじょうが、方向を出すまでの間は、事業内容の拡充を図り、少しでも利用率の向上に努められますよう願っています。

◇青少年ホーム（3,091 千円）

特色のある「軽運動室」「音楽室」を中心に生涯学習講座やサークル活動の拠点として利用されています。

館内の根上校下婦人会「喫茶トロイカ」では展示コーナーをはじめ朗読会、座談会、ミニコンサート等を開催し憩いの場となっています。

評価

主催事業の充実を図るとともに、生涯学習活動の場として利用拡大に努めたいと思います。

○意見

青少年ホームが、働く青少年の学習活動やサークル活動の支援を通じて青少年のつながりづくりや絆づくりに成果を上げてきたことを理解しているひとりではありますが、青少年の思いを把握しながら、活動へのさらなる支援や利用者の拡がりを期待します。

また、ホームが校下の女性団体の地域における活動拠点として機能するとともに、利用者自らがセンターの在り方について考えてみる機会の設定も良いのではないかと思います。

ます。

市内の様々な社会教育施設が、それぞれ独自の役割を持つ施設として事業展開しておりますが、施設の間での事業や情報のより一層の連携・協力の可能性を追求したり、教育委員会所管以外の施設とも連携しながら事業を展開されるよう期待いたします。

施策4 芸術・文化の振興

文化財の保護・活用・継承と文化活動の奨励等により、芸術と文化の薫り高いまちづくりに向けて、文化意識の高揚を図ります。

1 文化財の保存と活用

平成26年度の主な取組

◇史跡能美古墳群及び埋蔵文化財総合活用事業（単独・継続事業・2,553千円）

①史跡と花のコラボレーション

秋常山史跡公園（秋常山古墳群）の魅力さをさらに高め、観光資源としての積極的な誘客を図るため、園内及び周辺に四季折々の花を植える史跡と花のコラボレーション事業を平成23年度より行っています。

平成26年度は、地元秋常町、秋常町営農組合の協力を得て、隣接田1haに菜の花とコスモスの栽培を行いました。今年度の生育状況は、気候と土壌の影響からか、菜の花は育ちが悪く、コスモスは大きくなりすぎるなど、改めて栽培の難しさを知る結果となりました。

そのようななかでも、花を見学を訪れる方々がおられ、また、開花期に開催した“菜の花フェスタ”と“秋常山古墳まつり”との相乗効果により、史跡を訪れたことのない人々にも古墳へ足を運んでもらう機会を提供することができました。

②菜の花フェスタの開催

4月13日（日）に秋常山史跡公園・秋常勤労者体育館を会場に能美市民環境ネットワーク・NPO法人エコ未来塾主催の“菜の花フェスタ in Nomi2014”を開催しました。菜の花の栽培をイベント誘致に繋げ、相乗的な誘客効果を図るもので、秋常山での開催は今年で3回目となります。会場では、環境をテーマとした様々なイベントが企画され、史跡の活用としては古墳ボランティアによる火起こしや勾玉づくりなどの古代体験、史跡公園内でのスタンプラリーなどを行いました。来場者は約2,500人を数え、史跡公園が多くの人々で賑わいました。

③秋常山古墳まつりの開催

9月23日（火・祝）に秋常山史跡公園を会場に“能美のまほろば 秋常山古墳まつり2014～灯りと音の夕べ”を開催しました。この祭りは、秋常山古墳群に眠る1,600年前の大王、巫女に秋の実りと収穫を感謝し、能美市の今後の繁栄を祈ることをテーマとしたもので、今年で3回目の開催となります。イベントのメインは、粟生小学校6年生による古墳儀礼の再現で、古墳時代の大王、武人、巫女、村人に扮した子どもた

ちが、夏休みに自分達で作った土器を用いて、当時行われたであろう古墳での儀礼を演じ、古墳に眠る大王に感謝の言葉を述べました。儀礼が終わった後、古墳に並べたエコキャンドル 1,000 個に点火し、古墳のライトアップを行いました。陽が沈み暗くなった会場では、ライトアップされた古墳をバックにシャンソンやジャズの演奏会を催しました。また、今年は初の試みとして、古墳でのプロジェクションマッピングを行いました。古墳に眠る大王と巫女の物語や色とりどりの文様を投影し、新たな古墳の姿を浮かびあがらせました。約 1,000 名の参加のもと、春の賑わいとはまた異なる、古墳を中心に据えた幻想的で落ち着いたイベントとなりました。

④古墳ボランティア活動

平成 23 年度より活動を行っている古墳ボランティアは現在 12 名を数え、古墳ガイドや歴史学習、各イベントでの古代体験指導などさまざまな取り組みを行っています。平成 26 年度は市内外から訪れる小学校の歴史学習や児童館への出前講座で古代体験の要望が多くあり、勾玉作りや火おこし体験など、子供たちが安全で楽しく学べるよう指導にあたりました。また、新たな古代体験メニューとして「古代弓矢体験」に挑戦し、秋常山古墳まつりで実践しました。

◇史跡能美古墳群及び埋蔵文化財総合活用事業（補助・新規事業・5,600 千円）

国史跡指定を広く周知し、史跡への理解を深めてもらうため、8 月 30 日～9 月 28 日の期間、市立博物館で「京都国立博物館所蔵品里帰り展～能美古墳群の歩みとこれから」を開催しました。来館者は 1138 名を数え、能美古墳群で初めて発掘調査が行われ、現在でも北陸唯一の出土品である六鈴鏡や鈴付銅釧などの貴重な品々をご覧いただくことができました。同じく 3 月 21 日には富山大学准教授高橋浩二先生による「能美古墳群と越の古墳」と題した記念講演会を開催し、参加者約 100 名が古代のロマンに耳を傾けていました。

また、国史跡指定に伴い更新が必要な説明板や案内板の設置、リーフレットの改訂、ブックレットの作成なども合わせて行い、古墳見学者の利便性を高めました。

◇能美古墳群保存整備事業（補助・新規事業・7,000 千円）

国指定史跡能美古墳群を適切に保存管理し、後世へ確実に継承するため、有識者や地元代表で構成される委員会指導のもと、能美古墳群保存管理計画を策定しました。今後は本計画にもとづき、史跡の保存管理と整備事業を進めていきます。

◇湯屋古窯跡群発掘調査事業（新規事業・2,000 千円）

湯屋古窯跡群は飛鳥時代の 7 世紀後半に操業した須恵器・瓦窯であり、これまでの調査で 5 基の窯が確認されています。なかでも B 支群 1 号窯は、須恵器と瓦を併焼した瓦陶兼業窯で、その瓦が国指定史跡 末松廃寺（野々市市）に供給されたことが明らかとなっており、白鳳期における古代寺院と密接に関わる生産遺跡として注目されています。また、その他の須恵器窯も以後 9 世紀にかけて能美丘陵上で展開される能美窯跡群の前半期に属するもので、当地域における古代窯業生産の様相を解明するう

えで重要な窯跡として位置づけられます。

平成 24 年度より民間開発に伴う発掘調査を実施しており、平成 25 年度は保存のための範囲確認調査と、B 支群 1 号窯出土品の整理作業を行いました。範囲確認調査では、A II 支群に分布する 2 基の窯跡の基礎データを得ることができました。また、出土品の整理作業では、窯で焼かれた須恵器や瓦などの洗浄や注記を進め、徐々に製品の様相が明らかになってきました。

評価

【史跡能美古墳群及び埋蔵文化財総合活用事業（単独）】

- ・菜の花とコスモスの栽培が上手くいきませんでした。開花期に合わせて実施したイベントにより、古墳群の周知と活用を図ることができました。
- ・コスモスと菜の花の栽培を地元へ委託したことで、地元市民に史跡への理解と愛着を深める機会となりました。
- ・古墳ボランティアが定着しつつあり、歴史学習や出前講座などの件数も増え、史跡を核とした活動の輪が広がってきました。
- ・今後の課題としては、イベントなどに地元町会や市民が準備段階から参加できるように工夫していく必要があります。
- ・情報発信の方法にまだ弱さがあるため、さまざまな情報媒体を検討し、より幅広い層、地域を対象にした宣伝を行う必要があります。

【史跡能美古墳群及び埋蔵文化財総合活用事業（補助）】

- ・記念展示、記念講演会の開催により、国史跡指定の周知と史跡への理解を深める機会を設けることができました。
- ・説明板、案内板の設置やリーフレット改訂版の作成などで、古墳見学者の利便性を高めることができました。
- ・今後の課題としては、史跡をより詳しく平易に理解してもらうよう、紹介映像や音声ガイドを設けるなど工夫していく必要があります。

【能美古墳群保存整備事業】

- ・能美古墳群の保存管理計画を策定したことで、史跡の適切な保存と管理が図られ、今後の保存整備事業の計画も定めることができました。
- ・今後の課題としては、能美古墳群の整備計画を策定し、一体的な史跡としての具体的な整備活用方法を検討する必要があります。

【湯屋古窯跡群発掘調査事業】

- ・郷土の貴重な埋蔵文化財について、保存のための基礎的なデータを得ることができました。
- ・今後の課題としては、出土品の整理作業を進めながら、調査成果や出土遺物の公開方法を検討する必要があります。

○意見

能美古墳群活用促進事業による秋常山史跡公園（秋常山古墳群）における，史跡と花のコラボ，菜の花フェスタ，古墳まつりなどの開催，さらにこれらへの古墳ボランティアの参加や地元住民の協力は，能美市における古墳群の価値を知らしめ，市民が歴史の歩みへの畏敬の念をいづく契機になったものと思量します。新規事業としての湯屋古窯跡群発掘調査事業も調査・研究を通じて当該古墳の歴史的，文化的，学術的価値を様々な方法で発信して下さることを期待します。

文化財は，市民共有の財産であり，能美市の「価値あるもの」であることに鑑み，関係省庁及び地元の理解と協力を得ながら整備・保存にご尽力ください。

また，多様な市民の学習成果を発揮する場として，市民ボランティア（古墳ボランティア）による文化財解説，古墳群解説，古墳群維持など市民参加につきましても，これを奨励されますよう期待します。

なお，文化財は，文化・教育資産としての側面と観光資産・資源としての側面を合わせて有している場合があります，引き続き市の企画担当課や観光交流担当課等とも連携しながら，その発信についても検討していただきたいと考えます。

2 博物館の活動

◇展示・教育・普及活動（ 1,061 千円）

①ギャラリー展示

月	展覧名	開催期間		来場者人数
4	こくぞう 植物画教室展	4月 9日（水）	4月17日（木）	598
4	原田純子デコアート倶楽部展	4月19日（土）	4月29日（日）	458
5	和泉 洸 絵画展	4月30日（水）	5月11日（日）	510
	室和彦水彩画展 溪声山色	5月14日（水）	5月25日（日）	719
6	辰口絵画クラブ展 「辰口の風」	5月31日（日）	6月 8日（日）	420
6	能美市美術作家協会 絵画部 第15回N展	6月14日（土）	6月22日（日）	555
	嶋田 ハルエ セレクト展	6月27日（土）	7月 6日（日）	661
7～8	夏休み企画展 知っとるけ 能美の自然	7月19日（日）	8月17日（日）	1,835
9	特別展示 京都国立博物館所蔵品 里帰り展	8月30日（土）	9月28日（日）	1,138

10	秋の企画展 中川洋・朋 石の造形	10月18日（土）	11月16日（日）	1,150
11	福島健介 フォトライフ倶楽部 作品展	11月28日（日）	12月7日（日）	587
12	館蔵品展 古地図・引き札・広告	12月13日（日）	1月18日（日）	365
1	石川ネイチャーフォト写真展	1月23日（金）	2月1日（日）	591
2	館蔵品展 昭和の道具 何に使うのかな	2月14日（土）	2月22日（日）	1,101
3	のみ写楽会 2014 四季のうつろい	3月1日（日）	3月15日（日）	497
3	辰口押し花教室 合同作品展	3月17日（火）	3月29日（日）	387

11,572名

②ふるさと講座 対象：一般

回	期 日	テ ー マ	参加者
第1回	4月26日（土）	絵馬が語るもの 「根上地区の調査より」 講 師：任田 猛，後 泰夫	34
第2回	7月19日（土）	知つとるけ 能美の自然 講 師：宮本 茂	25
第3回	9月27日（土）	勸修寺と郡家の荘 講師：石川 友之	23

82名

③博物館講座など（辰口地区公民館との共催を含む）

講座名	期 日	講 師	参加者
中村栄俊氏と中村記念美術館	4月17日（木）	中村記念美術館 館 長 藪下 宏	50
自然観察会 能美の野鳥を楽しもう	5月第2土曜日 10回	日本野鳥の会石川支部 高 剋滋，高 文子	163
ニカ釜でごはんを炊く	7月20日（日）	職員，ボランティア	80
能美市でホテルを見よう ホテルの話と観察会	6月28日（日）	石川むしの会 石川 卓弥	80

川原の石でアート	7月25日(金)	イラストレーター 上出 慎也	24
川の中の生き物たちを探そう	7月31日(木)	いしかわ動物園 山本 邦彦	21
身近な植物で染物体験	8月 7日(日)	染色家 嶋田 ハルエ	25
木工体験 飾り棚をつくる	8月 8日(木)	建具職人 中 正次 公民館, 博物館職員	30
キノコの植菌体験	3月22日(日)	能美の里山 ファン倶楽部会員等	30組

④団体見学の受け入れ

学校教材 4月～5月 宮竹, 辰口中央, 浜小学校6年 8クラス 340名
1月～2月 市内, 川北町の小学校3年 19クラス 577名
回想法 77施設 701名 ⇒ 52施設 520名
一般 9団体 80名 ⇒ 15団体 201名

⑤博物館友の会

講演会・・・「創業者中村栄俊と中村記念美術館」4月 「宮本三郎と山口操助」2月
研修会・・・名古屋ボストン美術館 「ミレー展」 6月
神戸市立博物館・京都国立博物館・京都市立美術館など 10月
ボランティア活動・・・展示の巡視 菜の花フェスタ 4月 古墳まつり 9月
蟹淵の目視観察8回 除草, 移植, 回遊通路の整備など各1回

◇調査・収集・記録事業(324千円)

① 生物生息調査

- ・蟹淵の移入種の撤去と目視観察 4月17日, 5月末～7月中旬
- ・自然監視員による灯台笹湿地の水確保作業 4月22日
- ・ハッチョウトンボ生息地「灯台笹湿地」観察会 6月15日
- ・山口海岸のコアジサシ抱卵の目視 7月初旬
- ・トミヨ保全のための専門家と関係者の検討会 12月4日

② 資料の整理

- ・市内各神社の絵馬調査の実施
- ・クリアファイル「食の民具」の製作 1,000部

◇ その他（40千円）

① のみでんライトアップ

期 間：4月1日（火）～14（月）

評価

近年の展示、教育普及活動は、地域の博物館として、能美市域の「歴史、民俗、自然」にこだわった内容で行っています。本年度の夏季特別展示は、平成14年から継続的に調査してきた市域の自然をテーマに実施しました。夏休みの期間でもあり、親子で楽しむ、学習できる内容ということで、動植物の生体展示や、クイズ形式のスタンプラリーを実施し、多くの来館者を得ることができました。

また、教育普及活動として、一般市民向けには、能美の自然についての講座として、楽しく学べるクイズ形式の講座を実施しました。親子向けには、夏休みの宿題にもできる、染め、石アート、木工や川遊びなど、それぞれ、専門家の指導のもと実施しました。

展示や普及活動の幅の広さは、県内の市レベルの博物館の中でも、特筆すべきものと考えます。

10年にわたり実施した能美市内の生物生息調査は、県内の各市町でも注目されている調査で、今後、5～10年ごとに、継続して行っていく必要があります。当面、動植物の生息地の保全について、緊急度の高い順に、専門家や市民グループらとともに、保全のための施策を講じてゆきたいと考えています。

今年度は、日本では一番小さな赤とんぼとして知られているハッチョウトンボが生息する湿地の整備を地元と専門家とで行いました。今後は、アベサンショウウオ等の生息地の目視、トミヨの生息状況のチェックなどを継続しながら、豊かな自然の保全を行っていく計画です。

また、市指定天然記念物をはじめ、里山の自然が、近年のゲリラ豪雨や大雪などで大きな被害を蒙っており、これらの対策について、今後は、関係各課と連携し、対策をとる必要となります。

今年度以降の課題としては、生物生息調査報告書や、埋蔵文化財報告書、合併以前の各町で発行された町史などのデジタル化を行い、インターネット上で公開し、誰もが利用できる（オープン化）ことが課題となります。

○意見

博物館は、基本的には、教育的配慮のもと、歴史、芸術、民族、産業、自然科学などに関する博物資料を収集、保管、展示、研究等の活動を通じて地域住民に社会教育的影響を与える教育の機関として、様々な工夫をしながらその機能を発揮しているように思われます。

近年、能美市域の「歴史、民族、自然」を主なテーマに教育普及活動を展開中とのことですが、ギャラリー展示、講座開設などの取組みは、後世に継承すべき「地域の価値」「地域の文化」に関する学びの契機、啓発の契機になるものと思います。

また、「博物館友の会」の活動に見られるように、住民の学びの成果を発表する機会の

提供、講師や解説員として協力していただく参加型の企画、「食の民具」ファイルの作成、のみでん広場のライトアップなどの事業も博物館をより市民に親しまれるものとする上で効果的であったと思います。

能美の資源・エネルギー、環境問題に関する理解の促進、能美市の産業振興、地域振興や観光振興に寄与する企画、市内のいしかわ動物園等との連携事業など、地域文化や生涯学習・社会教育の中核的拠点としての機能の発揮が今後とも期待されます。

3 文化振興

平成 26 年度の主な取組

◇文化連盟・協会（4, 200 千円）

文化活動を行う各種団体相互の連絡を図り、相提携して文化向上に寄与することを目的とします。加盟協会は計 38 協会。

◇民俗芸能保存伝承（620 千円）

郷土芸能の保存・伝承に取り組むことにより、後継者の養成、地域社会の活性化、世代間交流の回復に寄与することを目的とします。保存会は計 15 団体。

評価

・文化連盟・協会への補助を行うことで、経済基盤が脆弱な団体の活動が活発になっています。文化祭や美術展、発表会などで市民に成果を発表することで、市民の文化意識が向上しています。

小中学生対象に年 2 回行っている席書大会や、市民からの作品を募集して発刊する文芸能美など、連盟・協会員以外の方が参加できる機会をもうけることにより、市全体の文化発展に寄与しています。文芸能美は発刊第 10 号となりました。文化活動を通じての市の発展と活性化がますます期待されます。

・民俗芸能保存会への補助を行うことで、教室や練習会を開催できています。研鑽した日頃の成果を能美市の祭りやイベントなどで積極的に披露することで、伝統文化を守り伝えていきます。

○意見

文化は、地道な活動の継続により花咲くという側面を持っています。そのような意味でも、市の文化連携・協会（加盟 38 団体）、民俗芸能保存会（15 団体）への補助金交付による活動支援は、当該団体の活動基盤を強化することになることは論を俟ちません。

そうした団体等の活動が市内にそして市民の間に文化的雰囲気醸し出していることは紛れのないことでありますので、引き続きの支援、助成を願っています。

◇第23回能美川柳大会兼第21回市民川柳大会 (1,090千円)

日時 7月5日(土) 11:00~16:00

会場 能美市根上総合文化会館 音楽ホール「タント」

内容 第23回能美川柳大会

第21回市民川柳大会(小学生・中学生・一般の部の3部門)

投句数 能美川柳大会 5,363句(内当日539句)

市民川柳大会 9,421句(2宿題の合計)

受賞者

□市民川柳大会の部 事前投句

○高塚 夏生 選 課題「開く」の部

特選

- | | | |
|------------------|--------|--------|
| ・さあいこう開くあしたの未来へと | 辰口中央6年 | 山下 嵩左 |
| ・若者が未来の日本切り開く | 寺井中2年 | 辻 貴博 |
| ・今日もまたひとり芝居の幕が開く | 新保町 | 跡地 けんじ |

○中 けん 選 課題「波」の部

特選

- | | | |
|------------------|-------|--------|
| ・ピアノからあふれ出てくる音の波 | 宮竹6年 | 佐野 ひかり |
| ・大津波人の記憶に刻む傷 | 辰口中2年 | 山崎 竜士 |
| ・波風を鎮める母の知恵袋 | 大長野町 | 江口 和子 |

□能美川柳大会の部

事前投句課題 雑詠／松／丸い

当日投句課題 温泉／舞う

能美川柳会 会長賞

- | | | |
|----------------|-----|------|
| ・露天の湯三日月様を手で掬い | 石川県 | 小西 都 |
|----------------|-----|------|

能美市文化協会 会長賞

- | | | |
|-----------------|-----|--------|
| ・主語のない会話で丸く住む夫婦 | 静岡県 | 竹山 恵一郎 |
|-----------------|-----|--------|

北國新聞社 社長賞

- | | | |
|-----------------|-----|--------|
| ・スマホの目万緑を見よ虹を見よ | 大阪府 | 小山 恵美子 |
|-----------------|-----|--------|

石川県川柳協会 会長賞

- | | | |
|-------------------|-----|--------|
| ・獅子舞いもバイトの足にたよる過疎 | 石川県 | 石本 よし一 |
|-------------------|-----|--------|

全日本川柳協会 会長賞

- | | | |
|-----------------|-----|-------|
| ・言い過ぎに塩一ふりで丸くなる | 岡山県 | 関藤 敏子 |
|-----------------|-----|-------|

能美市議会 議長賞

- | | | |
|----------------|-----|--------|
| ・遠ざかる昭和近づく昭和初期 | 東京都 | 曾我部 八郎 |
|----------------|-----|--------|

石川県教育委員会 教育長賞

- | | | |
|-----------------|-----|---------|
| ・君が舞う手のひらだから温める | 富山県 | 久々湊 公美子 |
|-----------------|-----|---------|

石川県知事賞		
・温泉の土産に元気しょって来る	石川県	本間 美津子
NHK 金沢放送局長賞		
・おや今日はどれが僕だろ羅漢さん	石川県	田中 惟夫
能美市教育委員会 教育長賞		
・大御所の丸くおさめた咳払い	石川県	坂 範子
能美市長賞		
・あっそうか孫には親が居ったんだ	岡山県	安藤 みちる
大会大賞（当日投句）		
・舞い終えてふっと迷子になる予感	石川県	坂 範子
大会大賞（事前投句）		
・若いねと言われ引き算してしまう	福井県	石谷 正美
・地球書く私を点としてグルリ	富山県	孝井 栞

評価

・能美川柳大会は、全国から参加者を募集するので、石川県外の方々に能美市をPRする良い機会となっています。投句用紙に「能美市のご案内」を掲載し、能美市の観光スポットを紹介して大会当日の参加を呼び掛けています。しかしながら、大会参加者の高齢化が進むとともに、参加者数が減少し、表彰式でも受賞者の欠席が目立ちます。このことから、開催内容の見直しが必要となっています。

・市民川柳大会は、学校に協力を仰ぐことで、小学生、中学生も川柳を投句しています。多感な時期に、日本の文化に触れることにより、将来的な能美市の文化振興につながってほしいと考えます。

○意見

長い歴史と伝統の継承により広がっている能美市の川柳大会は、川柳の魅力を市の内外へと発信するものとなっています。寄せられた句の一つ一つに様々な思いが込められ、評価者も共感を覚えるものばかりです。しかしながら、近年の参加者数の減少や受賞者の欠席等が見受けられるとの自己評価は、大会の開催の方法や在り方が一つの岐路にあり、能美市が行う川柳大会の独自性は何か、について、対象の限定、賞の限定など市民を交えた検討は必要なのかもしれない。

ただ、やはり市民レベルの思い、つぶやきにも似た感性の表出の機会は貴重だと考えますので、「川柳のまち能美」事業とタイアップすることのできそうな他部局所管の事業との連携の可能性はありませんでしょうか。

施策5 生涯スポーツの推進

市民の運動やスポーツのニーズに応じ、市民一人ひとりが自己の生活や目的にあった形で、スポーツを楽しむライフスタイルの構築を目指し、誰もが気軽にスポーツやレクリエーションなどの運動に親しめる、安全で効果的なスポーツの環境づくりを積極的に進めました。

1 競技スポーツの充実・強化

平成 26 年度の主な取組

◇県民体育大会への選手派遣（1,774 千円）

内灘町を主会場に金沢地区で開催された県民のスポーツの祭典である「石川県民体育大会」に能美市を代表して参加する選手を派遣するための補助を行いました。台風 11 号の接近による悪天候のため、大会 2 日目の全競技が中止となり、42 競技中完全実施 8 競技、一部実施 7 競技と少ないため、総合成績はつきませんでした。

◇能美市民体育大会（788 千円）

広く市民の間にスポーツを振興し、スポーツ精神の高揚と選手の発掘と育成強化を図ることを目的に、6 月を中心に市内各施設を利用して開催され、今年度は 25 競技が開催され、その運営補助を行いました。

◇全日本競歩能美大会（11,904 千円）

アジア最高峰の大会である「アジア陸上競技選手権大会 20 k m 競歩」を兼ねるとともに、「第 9 回日本学生 20 k m 競歩選手権大会」を併催し、「第 15 回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）男子・女子 20 k m 競歩代表選手選考競技会」、「第 28 回ユニバーシアード競技大会（2015／光州）日本代表選手選考競技会」にも位置付けられた大会に 8 部門計 408 名のエントリーのもと開催された大会の運営費として補助を行いました。今大会において、地元出身の鈴木雄介選手（富士通）が 1 時間 16 分 36 秒の世界新記録を樹立し、会場は終始、興奮と歓声に包まれる素晴らしい大会となりました。

期 日 平成 27 年 3 月 15 日（日）

場 所 能美市営 20 k m 公認（2 k m 周回）コース

◇第 57 回全国銃剣道能美大会（1,200 千円）

地方で開催される唯一の銃剣道競技の全国大会として、全国各地から自衛隊や一般、高校生の精鋭が集まる大会です。平成 26 年度は全国から 168 チーム、1,007 名が出場し、団体の部、個人の部でそれぞれ日本一を目指しました。

競技自体が特殊なことから、市銃剣道協会が中心となり開催され、大会運営の補助を行っています。

評価

県民体育大会への選手派遣及び市民体育大会については、競技力の向上強化や市民のスポーツ競技への関心と振興を図るためのその運営費として、能美市体育協会へ補助金として交付しているものであります。県民体育大会は、総合成績こそつきませんでした。実施された競技においては、日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。中止となった競技についても、次年度大会に向け、今後の練習への大いなる励みに繋がり、今後もその運営に体育協会が引き続き活動できるよう、連携・支援を行う必要があると考えます。

全日本競歩能美大会及び全国銃剣道大会は、全国大会でありながら特殊性のある競技でもあることから、馴染みの薄い競技ではあるものの、競歩大会においてはアジア選手権も兼ね、年々、エントリー数も増加し、競技レベルも非常に高いものになってきました。また、選手や大会関係者からは、能美市の大会運営や応接について、高い評価を得るなど能美市の知名度アップに大きく貢献しています。銃剣道大会では、全国から集まる選手から、大会運営やふるまい鍋など好評を得ています。

今後の課題としては、全国各地から選手が集う大会でありながら、その競技の特殊性からも、応援を含め市民の関わりが薄いため、市民が大会に関われる仕組みづくりや競技の周知方法について、更なる工夫と検討を重ねる必要があると考えます。

平成 27 年度については、県民体育大会においては、前年度中止の雪辱を晴らすべく、早い時期からの競技力強化を行うべく、体育協会との連携・支援する仕組みづくりを検討し、成果が出ることで助成（費用）根拠を強いものとし、今後の支援体制（方針）を充実したものとなるよう考えております。

また、全日本競歩能美大会については、“世界記録が生まれた地、から派生する市内のウォーキング熱を一層向上させることを目的に、姿勢の矯正やケガの予防、健康寿命の延伸の一端を担える事業展開に努めたいと考えます。

銃剣道大会については、全国でも数少ない銃剣道の全国大会でありながら、競技自体の知名度が低いことから、毎年周知しているものの、応援等で来場する人数が少なく、平成 27 年度はさらに周知の徹底を行いたいと考えます。

○意見

県民体育大会や市民体育大会は、スポーツ活動に携わる方にとって、日頃行っている練習の成果を発揮する機会であり、併せて「能美市」を発信する機会となるものでもあります。さらに大会への参加や開催に向けた支援は、選手層の拡がりやスポーツの普及や振興に寄与する面もあることから、今後とも継続的な取組みを期待いたします。

全日本競歩大会、銃剣道大会は、能美市にしっかりと定着した大会ではあります。市民の中では、これらへの係わり度合いが、今ひとつという状況であるという自己評価ですが、昨年度の意見にも記させていただきましたように、「競歩のルール」、「銃剣道の魅力」というテーマでの講座を開設するなど、その基本について学ぶ機会を市民向けに提供されるのも認知度を高めることにならないでしょうか。また、中学校の体育の「武道」に短時間でも銃剣道の基本や心得を指南する機会を設けてはいかがでしょうか。ここ数年、同様の指摘となってしまいましたが、ご検討賜れば幸いです。

2 生涯スポーツの普及・振興

平成 26 年度の主な取組

◇ジュニアスポーツクラブ活動（4,920 千円）

スポーツを通して健全な青少年の育成を図るとともに、各競技の技術力の向上及び底辺の拡大を図るため、市内 45 クラブの活動を支援しています。

また、各クラブ間の連携、交流や親睦を図るためのリーダー研修やスポーツ交流大

会を開催，指導力の向上を目的に指導者研修会を開催し，クラブ全体の円滑な運営を図っています。

◇高齢者健康クラブ活動（980 千円）

運動の機会の少なくなる高齢者の方々に健康，体力保持を目的として開催する教室であり，市内 3 クラブ約 176 名の高齢者が 3 会場に分かれ，ダンスや体操を行っています。県の交歓大会や普及育成会等に参加する等，3 クラブはもとより市外の健康クラブとも交流を図っています。

◇スポーツ教室「からだバランス塾」(2,614 千円)

スポーツを定期的実施する機会を提供し，スポーツをライフスタイルに取り入れることにより，体力の向上，精神的ストレスの発散や生活習慣病の予防など，心身の両面にわたる健康保持増進を図ることを目的として，エアロビクス，ピラティスやキッズダンスなど様々な教室を前後期に分け，1 年を通して実施しました。

前期（4 月～9 月）11 教室 後期（10 月～3 月）11 教室 延べ 673 名参加

評価

ジュニアスポーツクラブ活動については，少年期に運動やスポーツとのよい出会い，楽しい仲間づくりができるように機会を提供することを目的としていますが，競技力の向上をメインとし活動するクラブが多くなってきています。ジュニアスポーツクラブのあり方を検証する必要があると思われま

す。高齢者健康クラブ活動及びスポーツ教室「からだバランス塾」については，共に参加者が固定化しつつあり，高齢者クラブについては，運動の継続性が大切であることから継続される方の固定化については特段問題はないが，新規会員の増加が見られないことに対しては，その理由を調査する必要性を感じます。

「からだバランス塾」については，需要を感じとりながら新たなエクササイズやダンスを積極的に取り入れ，市民への機会提供に努めることにより，定員数を上回る参加希望を得ることができました。ただ，初期の目的を達した教室については，サークル化を促し，自主運営できるような手立てを講じ，運動の継続化と参加者固定化の改善に対応する必要性があると思われま

す。今後もそれぞれの活動が，地域に根ざしたクラブとして活動できるよう連携・支援を行う必要があります。子どもから高齢者までのニーズの把握や周知方法などの検討課題もあります。

平成 27 年度については，ジュニアスポーツクラブにおいて，大会で勝つことや競技力を高めることに加え，本来のジュニアスポーツクラブの目的である，スポーツの楽しさ，素晴らしさを追求し活動する場となることを指導していきます。

高齢者健康クラブについては，イベントで活動を PR し，新規会員の増加に努めたいと考えま

す。カラダバランス塾は，ふるさと振興公社に事業を移管し，子どもから高齢者まで幅広い年齢層によるニーズに答えた，より質の高い教室の開催を目指し，市民の健康保持増進を図っていくことが期待されま

○意見

子どもから高齢者にいたる多くの市民が、生涯にわたって自分なりに親しむことのできるスポーツを持つことができることは、生きがいづくりや健康・体力づくり、生涯スポーツの普及・振興につながるものです。

ジュニアスポーツクラブ活動、研修会開催等への支援、高齢者健康クラブ活動への支援、さらにはスポーツ教室「からだバランス塾」の通年での開催など、今後とも生涯スポーツの裾野の拡がりへの支援の継続は、地域団体の「育成」という視点からも大切なことと思われます。ただし、自己評価されているように、クラブ活動の組織や運営、事業のあり方等については、厳しめの自己分析がなされてもよい時期かもしれません。その場合、参加している方だけではなく、参加していない方の思いを聴取できるとよいかもしれません。

なお、助成を受けている団体においては、その原資（助成金）の源は、市民の浄財である、という認識を持つ必要があります。その意味においても、経費の執行においては、適正・適切かつ効果的に行わなければならないという高度な自律性が求められます。

各団体に補助金の性格や意義についての理解を求めるとともに、最少の経費で最大の効果をめざすことを改めて認識していただく機会を個別的にでも設ける取組みに着手することを提起いたします。

3 スポーツ施設の整備充実

平成 26 年度の主な取組

◇能美市寺井第二体育館改修工事（建築）

- ・耐震補強工（軸ブレース） N=4 箇所
- ・耐震補強工（屋根ブレース） N=10 箇所
- ・外壁改修工 N=1 式
- ・競技場床改修工 A=588 m²
- ・男女トイレ洋便器設置工 N=3 箇所 他

◇能美市寺井第二体育館改修工事（電気）

- ・自動火災報知設備改修工 N=1式
- ・競技場照明改修工（LED） N=23個
- ・分電盤改修工 N=1式 他

◇寺井体育館更衣室新設工事

- ・更衣室新設 N=1 箇所

◇能美市翠ヶ丘多目的広場整備工事

- ・既存テニスコート取壊し工 A=2,560 m²

- ・人工芝敷設工 A = 2,560 m²
- ・附帯設備工 N = 1 式 他

◇能美市寺井野球場グラウンド改修工事

- ・内野補修工 A = 2,470 m²
- ・芝生切り下げ工 A = 170 m²
- ・ファウルライン補修工 A = 184 m² 他

◇寺井体育館横駐車場整備工事

- ・As 舗装版破碎工 A = 2,730 m²
- ・駐車場舗装工 A = 3,970 m²
- ・区画線工 L = 925m
- ・擁壁工 L = 36m 他

◇寺井体育館横駐車場整備工事（電気）

- ・外灯設置工 N = 4 基
- ・電源引込工 N = 1 式 他

◇寺井体育館放送設備改修工事

- ・ラック型放送設備更新 N = 1 式
- ・メインスピーカー N = 2 台
- ・サブスピーカー N = 6 台

◇上記工事を含め 13 件の工事, 8 件の業務委託（実施設計等）, 2 件の備品購入を実施

◎改修工事費総額 151,032 千円

◎業務委託費総額 14,152 千円

◎備品購入費総額 599 千円

評価

能美市寺井第二体育館は昭和56年の設置以来大規模な改修を行っておらず、施設の老朽化が進んでいたこと、また耐震性能も有していなかったことから、耐震工事と併せ大規模改修工事を施工しました。施工内容としては、競技場の床を従来の木製フローリングから、県内の公的施設では初めて採用された体育館用スポーツフロアを敷き、ささくれ等による怪我の防止や今後のメンテナンス経費の削減を図りました。今回採用したスポーツフロアは、日本のトップレベル競技者用トレーニング施設である、ナショナルトレーニングセンターでも採用されています。

競技場の照明には従来のH I D灯からL E D照明に変更し、電気使用量の削減や C O 2 削減による地球温暖化対策の貢献を目指しました。今回耐震改修工事を施工したことにより、災害時の避難施設として活用できるとともに、利用者の利便性の向上、また安全安心に利

用できるようになります。

能美市翠ヶ丘多目的広場は、テニスコートの経年劣化によりコート表面にクラックが増加し、施設利用者も減少していたことから取壊し、市内で初のロングパイル人工芝を敷設して、フットサルの試合やサッカー・ラグビーの練習、またレクリエーション等多目的に利用できるようになりました。また、人工芝の下には周囲にグリーンビズを設置し、夏場の表面温度上昇を抑制しています。

寺井体育館横駐車場整備工事では、九谷会館が解体された事により、駐車場面積を広げ、駐車台数を増加することで利用者の利便性が向上されます。

寺井体育館では老朽化による放送設備の更新や、女性の利用者に配慮し、更衣室を新設することで施設の充実を図りました。

次年度以降については、市内各施設は設置後 20 年以上の施設がほとんどであり、各施設において経年劣化による破損修繕及び改修が必要となっており、今後計画的に改修し施設の延命化を図る必要があります。

また、体育館の耐震改修工事や、東日本大震災以降問題となっている非構造部材（吊天井や天井照明等）の補強工事も計画的に進め、施設利用者が安全で快適に利用できる施設整備を図るとともに、災害時の緊急避難場所としても活用できるようにしていきます。

○意見

能美市が所管するスポーツ施設の整備状況の一端を垣間見る機会となりました。周知のように、公の施設は、設置から廃止までの間は「管理」されなければなりません。改修、撤去、整備、補修などが必要に応じてなされなければなりません。そのことにより利用者の利便性を図ったり、安全確保の水準を向上させたり、効率的な運営が可能となったりするなどの効果が期待されますので、今後ともスポーツに親しむことのできる施設設備の整備、備品の近代化にご配慮されますことを期待します。

教育委員会会議及び教育委員の主な活動

1 教育委員会会議

13 回開催（開催日及び審議決定事項 次頁）

{ 議案 33 件 }

2 教育委員の主な活動（大会ほか各種行事など）

月 日	内 容
H26. 4. 1	事務局職員辞令伝達式
H26. 4. 3	第 6 回市教育委員会会議
H26. 4. 7	市内小学校・中学校入学式
H26. 4. 8	転入教職員着任式
H26. 4. 12	ジュニアスポーツクラブ結団式
H26. 4. 13	菜の花フェスタ

H26.	4. 25	石川県市町教育委員会連合会理事会（金沢市）
H26.	4. 25	市体育協会総会
H26.	5. 9	石川県市町教育委員会連合会定期総会（金沢市）
H26.	5. 9	第7回市教育委員会会議
H26.	5. 24	能美中学校陸上競技大会
H26.	5. 25	スポーツフェスティバル in ねあがり
H26.	5. 30	第10回市民体育大会総合開会式
H26.	5. 31	タント寄席 春風亭小朝独演会
H26.	6. 3	和気小学校計画訪問
H26.	6. 5	能美中学校相撲大会
H26.	6. 6	第8回市教育委員会会議
H26.	6. 8	第6回能美市民綱引き大会
H26.	6. 9	根上中学校計画訪問
H26.	6. 9	第2回市議会定例会
H26.	6. 10	寺井中学校計画訪問
H26.	6. 11	湯野小学校計画訪問
H26.	6. 15	第57回全国銃剣道能美大会
H26.	6. 18	辰口中央小学校計画訪問
H26.	6. 18	第2回市議会定例会
H26.	6. 19	第2回市議会定例会
H26.	6. 21～23	加賀地区中学校総合体育大会
H26.	6. 24	福岡小学校計画訪問
H26.	6. 27	第2回市議会定例会
H26.	6. 28～29	県中学校陸上競技大会
H26.	7. 5	NHK学園能美川柳大会・市民川柳大会
H26.	7. 9	辰口中学校計画訪問
H26.	7. 8～14	シェレホフ市少年親善使節団 受入
H26.	7. 9	シェレホフ市少年親善使節団 市長表敬訪問
H26.	7. 18	市内小学校・中学校終業式
H26.	7. 18	第9回市教育委員会会議
H26.	7. 19	粟生校下あいさつ集会・こころの花運動出発式
H26.	7. 19～21	県中学校総合体育大会
H26.	7. 19～8. 17	博物館企画展「知っとるけ！能美の自然」～守り伝えたい能美の自然～
H26.	7. 23～27	寺井中学校韓国大徳中学校少年親善使節団派遣（寺井中学校姉妹校）
H26.	7. 26～8. 3	能美市少年親善使節団ロシア連邦シェレホフ市派遣
H26.	7. 29	学校教育懇談（浜小学校・寺井小学校・粟生小学校）
H26.	8. 2～10	サイエンスフェスタ能美 2014

H26. 8. 5	県市町教育委員会連合会教育セミナー（金沢市）
H26. 8. 6～7	北信越中学校総合体育大会
H26. 8. 8～11	根上中学校少年親善使節団韓国培材中学校受入（根上中学校姉妹校）
H26. 8. 9～10	第66回県民体育大会夏季大会（内灘町主会場）
H26. 8. 11	学校教育懇談（和気小学校・宮竹小学校・福岡小学校）
H26. 8. 12	学校教育懇談（辰口中央小学校・辰口中学校・湯野小学校）
H26. 8. 19	学校教育懇談（根上中学校・寺井中学校）
H26. 8. 19	第10回市教育委員会会議
H26. 8. 30	第33回加賀地区中学生意見発表大会（主催）
H26. 8.30～9.28	能美古墳群国史跡指定記念 「京都国立博物館所蔵品里帰り展 - 能美古墳群の歩みとこれから - 」
H26. 9. 1	市内小学校・中学校第2学期始業式
H26. 9. 1	第3回市議会定例会
H26. 9. 1～5	あいさつ強化週間
H26. 9. 2	第2回石川県市町教育委員会連合会理事会（金沢市）
H26. 9. 5	映画上映会「ツレがうつになりまして。」
H26. 9. 6	石川県立歴史博物館共催 第21回石川歴史遺産セミナー 「加賀の王墓と変革の5世紀」
H26. 9. 10	第3回市議会定例会
H26. 9. 11	第3回市議会定例会
H26. 9. 23	秋常山古墳まつり ～灯りと音の夕べ～
H26. 9. 24	第3回市議会定例会
H26. 9. 27	ふるさと講座 ～能美の災害史 災害と飢饉～
H26. 9. 29	第11回市教育委員会会議
H26. 10. 5	スポーツフェスティバル in てらい
H26. 10. 8	NOMI りんぐ授業公開（福岡小学校・辰口中学校）
H26. 10. 9,10	東海北陸六県市町村教育委員会連合会理事総会・研究協議会（小松市）
H26. 10. 16	寺井小学校計画訪問
H26. 10. 16,17	東海北陸社会教育研究大会（七尾市） 能美市：研究発表
H26. 10. 17	石川県市町教育委員会連合会研究大会（輪島市）
H26. 10. 20	粟生小学校計画訪問
H26. 10. 23	第12回市教育委員会会議
H26. 10. 27	浜小学校計画訪問
H26. 10. 28	いしかわ学びの指針12か条推進指定校研究発表授業公開（辰口中央小学校）
H26. 10. 29	能美市総合文化祭（ジュニア文化発表会）
H26. 11. 1～3	能美市総合文化祭
H26. 11. 6	加南地区教育委員会連絡協議会研究大会（川北町）
H26. 11. 13	宮竹小学校計画訪問

H26. 11. 13～16	第7回子どもマイスターウィーク
H26. 11. 15	第7回子どもマイスター賞表彰式
H26. 11. 18	第13回市教育委員会会議
H26. 11. 19	いしかわ学びの指針12か条推進校研究発表会（寺井中学校）
H26. 11. 28	第4回市議会定例会
H26. 11. 30	市ジュニアスポーツクラブ交流大会
H26. 12. 9	第4回市議会定例会
H26. 12. 10	第4回市議会定例会
H26. 12. 18	第4回市議会定例会
H26. 12. 22	第14回教育委員会会議
H26. 12. 24	市内小学校・中学校終業式
H26. 1. 8	市内小学校・中学校始業式
H26. 1. 11	成人式
H27. 1. 23	NOMIばんぶー授業公開（根上中学校・和気小学校）
H27. 1. 28	第1回市教育委員会会議
H27. 2. 4	平成26年度市町新任教育委員研修会（金沢市）
H27. 2. 4	立志式
H27. 2. 20	第2回市教育委員会会議
H27. 2. 20	市体育協会表彰授与式
H27. 2. 22	能美まなびフェスタ2015
H27. 3. 2	第1回能美市議会定例会
H27. 3. 11	第1回能美市議会定例会
H27. 3. 12	第1回能美市議会定例会
H27. 3. 13	市内中学校卒業式
H27. 3. 13	第3回教育委員会会議
H27. 3. 15	第39回全日本競歩能美大会
H27. 3. 18	市内小学校卒業式
H27. 3. 24	第1回能美市議会定例会
H27. 3. 24	市内小学校・中学校終業式（平成26年度終了式）
H27. 3. 25	第4回教育委員会会議
H27. 3. 27	教職員離任式

3 平成26年度教育委員会会議開催状況

回（開催日）	審議決定事項
平成26年第6回 （H26. 4. 3）	議案第14号 能美市教育委員会委員長の任命について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・能美市教育行政の基本方針について ・教育委員会事務局各課事務分担について

<p>平成 26 年第 7 回 (H26. 5. 9)</p>	<p>議案第 15 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について</p> <p>議案第 16 号 能美市社会教育委員の補充について</p> <p>報告第 1 号 能美市博物館協議会委員の補充の報告について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度フォローアップスクールについて ・音楽ホール「タント」各種公演について ・ジュニアスポーツクラブ結団式について ・第 10 回能美市民体育大会総合開会式について ・第 57 回全国銃剣道能美大会について
<p>平成 26 年第 8 回 (H26. 6. 6)</p>	<p>議案第 17 号 平成 25 年度能美市一般会計の教育関係補正予算の要求について</p> <p>議案第 18 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告第 2 号 能美市辰口学校給食センター運営委員の補充の報告について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度能美市姉妹都市交流事業について ・学校計画訪問及び学校教育懇談について ・第 21 回市民川柳大会について ・東レアローズによるバレーボール教室について
<p>平成 26 年第 9 回 (H26. 7. 18)</p>	<p>議案第 19 号 能美市いじめ防止基本方針について</p> <p>議案第 20 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県市町教育委員会連合会教育セミナーについて ・第 57 回全国銃剣道能美大会 ・第 6 回市民綱引き大会 ・北信越総合体育大会，吹奏楽各種大会について ・第 33 回加賀地区中學生意見発表大会について ・東レアローズバレーボール教室について ・第 66 回石川県民体育大会夏季大会について
<p>平成 26 年第 10 回 (H26. 8. 19)</p>	<p>議案第 21 号 平成 26 年度能美市一般会計の教育関係補正予算の要求について</p> <p>議案第 22 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認</p>

	<p style="text-align: center;">定について</p> <p>議案第 23 号 平成 27 年度小学校教科書等の採択について 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校運動会日程について ・北信越総合体育大会及び全国大会結果について ・のみのまほろば 秋常山古墳まつり 2014 について <p>【教育委員からの意見・提言】 不登校児童・生徒の把握状況及びきめ細やかな学習サポート対応の継続を希望。</p>
<p>平成 26 年第 11 回 (H26. 9. 29)</p>	<p style="text-align: center;">議案第 24 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加 認定について</p> <p>報告第 3 号 平成 27 年度使用小学校教科用図書等採択について 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県市町教育委員会連合会研究大会について ・能美市授業研究会「NOMI りんぐ」について ・第 69 回国民体育大会出場選手について ・スポーツフェスティバル in てらい・たつのくちについて ・タント演劇学校公演一初恋 について ・能美市ファミリーコンサート, ミュージカルについて <p>【教育委員からの意見・提言】 学力調査結果の県の方針に従った公表について, 学力向上にむけて全体レベルの底上げを図るためのイニシアティブをとるのは教育委員会の責務と思う。 地域連携, 地域活性化につなげて「生きる力」を育てることは, 特色ある学校づくりと相乗効果があるものと考えられ, 学習力向上にもつながるきっかけとなることを期待する。</p>
<p>平成 26 年第 12 回 (H26. 10. 23)</p>	<p style="text-align: center;">議案第 25 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認 定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加南地区教育委員会連絡協議会研究大会について ・能美中学校新人大会結果, 加賀地区中学校新人大会の予定について ・第 7 回子どもマイスターウィーク・マイスター賞表彰式について ・管外学校視察について ・第 51 回歳末助け合い入札展について

	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回能美市総合文化祭, 文化芸芸能大会・文化協会合同公演会について ・ほうじゅチャレンジカップ2014市小学校対抗サッカー大会について
平成26年第13回 (H26.11.18)	<p>議案第26号 平成26年度能美市一般会計補正予算の教育関係予算について</p> <p>議案第27号 平成26年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告第4号 第2次能美市子ども読書活動推進計画策定委員会委員の選任の報告について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回子どもマイスター賞受賞者について ・第12回市町対抗ふるさと駅伝大会について
平成26年第14回 (H26.12.22)	<p>議案第28号 平成26年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第51回歳末助け合い入札展結果報告について ・平成27年能美市成人式開催要項について ・第39回全日本競歩能美大会の開催日決定について ・第12回市町対抗ふるさと駅伝成績について ・平成26年度能美市教育委員会の点検及び評価報告書(平成25年度事業対象)について <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果を公表することで, 教育に関心が集まり, 学校を良くしようとする組織的な取り組みが行われ, 地域が支える学校ができればよいと思う。</p> <p>ソーシャルメディアで情報が瞬く間に拡大する危険な要素もあり, 危惧している。</p>

<p>平成 27 年第 1 回 (H27. 1. 28)</p>	<p>議案第 1 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定 について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年成人式参加状況について ・平成 27 年立志式, まなびフェスタ 2015 開催要項 ・第 39 回能美市耐寒継走選手権大会について ・ジュニアスポーツクラブ 5 年生リーダー研修会 ・平成 26 年度能美市体育協会表彰授与式について ・第 39 回全日本競歩能美大会について <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <p>ノロウイルス感染が発生すると学校給食中止等の臨時措置で大きな影響が出る。今一度安全衛生面の指導徹底をお願いする。</p>
<p>平成 27 年第 2 回 (H27. 2. 20)</p>	<p>議案第 2 号 能美市教育委員会広告式規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 3 号 能美市教育委員会会議規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 4 号 能美市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 5 号 能美市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 6 号 能美市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 7 号 能美市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 8 号 平成 27 年度能美市一般会計の教育関係当初予算の要求について</p> <p>議案第 9 号 平成 26 年度能美市一般会計の教育関係補正予算の要求について</p> <p>議案第 10 号 能美市学校歯科医の補充の選任について</p> <p>議案第 11 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書採択地区協議会等の考え方について

	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能美市立小学校・中学校の卒業式について ・まなびフェスタ 2015 について ・能美古墳群国史跡指定記念講演会について ・第 39 回全日本競歩能美大会について
平成 27 年第 3 回 (H26. 3. 13)	議案第 12 号 能美市立小中学校管理職の異動内申について
平成 27 年第 4 回 (H26. 3. 25)	<p>選挙第 1 号 能美市教育委員会委員長の選挙について</p> <p>議案第 13 号 能美市教育委員会委員長職務代理者の指定について</p> <p>議案第 14 号 能美市就学援助費支給取扱規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 15 号 能美市根上総合文化会館管理運営規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 16 号 能美市指定文化財の解除について</p> <p>議案第 17 号 平成 26 年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>議案第 18 号 平成 27 年度能美市教育行政の基本方針について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能美市立小学校・中学校入学式の臨席者について ・音楽ホール「タント」公演年間予定事業、「熱狂の日」音楽祭 2015 in 能美, タント寄席について ・第 39 回全日本競歩能美大会成績について

評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育全般にわたる職務権限を有する行政委員会として、委員自らが重要な責務を自覚しつつ、職務遂行に必要な知識の習得・研修に取り組みました。多様化する教育ニーズに対応し、市民にわかりやすく教育委員会の活動を説明していくとともに、能美市教育行政の基本方針である『地域に根ざし 豊かな未来を拓く 人づくり』の実現に向け教育の充実・振興に努めています。平成 27 年度からは、能美市総合教育会議が設立され、市（行政）とともに教育施策の大綱を策定し、教育課題や目指す姿について協議を行い、更なる教育行政の推進に努めています。

○意見

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律上、およそ教育全般にわたる職務権限を有する行政委員会であり、定例会や臨時会において決すべき議案も多岐にわたっています。

周知のように、同法の改正で、総合教育会議が設けられるとともに、学校と地域社会との連携事業と言ってもよい学校運営協議会についても「置くことができる」と規定されています。

このたびの自己点検・自己評価報告書を拝見いたしましても、限られた予算をどの事業に何のために配分し、どのような成果が得られる可能性があるか、という自己分析、また事業遂行上、改善や見直しの方向についても真摯に向き合おうとする行政意思を感じ取りました。

教育行政による利益の享受者は、児童・生徒、教員、地域住民でなければならず、それはとりもなおさず能美市、県、ひいては国家社会の利益になるものと認識します。

もちろん、漫然と施策を遂行するのではなく、喫緊の課題については優先順位を高く設定して、重点的かつ可及的速やかに予算を配分するなどメリハリのある施策としなければなりません。

自己点検・自己評価をつうじて、地域住民に対する説明責任を果たすとともに、評価結果を新たな施策の推進に活かし、その利益を地域住民が享受できるような仕組みづくりに役立て、今後の能美市における教育全般のより良い発展に寄与するものであることを切に願うものです。